

第39回奈良県 人権・部落解放研究集会

9月23日(日)

午前 全体会 開会9:15～ **午後** 分科会・フィールドワーク 開会13:00～
何でも法律相談 & 人権相談(無料) 13:00～16:00(予定)
法律相談は南都総合法律事務所の弁護士さんに協力していただきます。(事前申込み必要)

開催テーマ「絆」を検証する

開催地 **天理市** (天理市民会館 他)



全体会記念講演

講師 作家 **田口ランディ**さん
演題 「人が生きるために必要なもの」

●田口ランディさんプロフィール●

作家。2000年に長編小説「コンセント」でデビュー。以来、人間の心や家族問題、社会事件を題材にした作品を執筆している。「できればムカつかずに生きたい」で婦人公論文芸賞を受賞。小説以外にも、ノンフィクションや旅行記、対談など多彩な著述活動を展開。08年には父親の看取りをきっかけに終末医療とエリザベスキューブラー・ロスの死生観を描いた「パピヨン」(角川学芸出版)を発表。2010年より対話のできる世代の育成のため「ダイアログ研究会(明治大学)」を開辦、多くの参加者を得ている。また、地元湯河原で「個性をだいたいにする会 色えんびつ」を立ち上げ、弊害に問題を抱える当事者、豪族と様々なイベントを企画している。最新作は長編小説「マジナル」(角川書店)『蛇と月と蛙』(朝日新聞出版)『アルカナシカ』(角川学芸出版)『ヒロシマ、ナガサキ、アグシマ 原子力を受け入れた日本』(筑摩書房 近刊)『サンカーラ この世の断片をたぐり寄せ』(新潮社)

分科会

第1分科会「若者の現状と自立への課題」

パネリスト

奈良県くらし創造部人権施策課
久世 恭詩さん(社団法人GARDEN)
原田 秀昭さん・飯田 弘さん(若者サポートステーションやまと)
コーディネーター
犬寺 和男さん(奈良県人権教育推進協議会)

第2分科会「深刻化する貧困問題と豊かな社会づくりへの課題」

パネリスト

吉田 耕一さん(ビッグイシュー・日本)
佐々木育子さん(奈良総合法律事務所)
大竹美知世さん(生活支援センターもちつちたれつ)
コーディネーター
村上 長雄さん(財団法人たんぽぽの家)

第3分科会「連鎖する差別の解消に向けたまちづくりの課題」

パネリスト

井岡 康時さん(奈良県立同和問題関係史料センター)
上田 邦晶さん(奈良県地域生活定着支援センター)
伊藤 謙さん(部落解放同盟奈良県連合会)
コーディネーター
辻本 正教さん(部落解放同盟奈良県連合会)

第4分科会「虐待を起こさない社会づくり・人づくりへの課題」

パネリスト

富田 忠一さん(社会福祉法人ちのほけ会)
岡田 悟さん(児童養護施設人と育成会)
伊藤 道子さん(社会福祉ワークアマネージャ)
コーディネーター
成田 進さん(市町村人権・同和問題「啓蒙連絡」)

フィールドワーク

天理市内の人権ゆかりの地探訪(分科会と並行して実施)
講師/奈良県立同和問題関係史料センター 奥本武裕さん
事前申込み必要・定員 30名

※駐車場を確保することができません。公共交通機関をご利用くださいますようお願いいたします。なお、今回は昼食パザールは行いませんので弁当をご注文いただくなど、各自で対応してください。

主催：第39回奈良県人権・部落解放研究集会実行委員会 後援：奈良新聞社/産経新聞奈良支局/朝日新聞奈良支局/中日新聞奈良支局/毎日新聞奈良支局/共同通信社奈良支局/日本経済新聞社奈良支局/時事通信社奈良支局/読売新聞奈良支局/奈良テレビ放送/NHK奈良放送局 協力：奈良県 奈良県教育委員会 連絡・問い合わせ先：奈良人権・部落解放研究所 TEL 0742-62-5179 FAX 0742-62-8509

研究集会開催テーマ



を検証する

第39回奈良県 人権・部落解放研究集会

主 催 第39回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会

開催日 9月23日(日)午前 全体会
午後 分科会・フィールドワーク

開催地 天理市(天理市民会館 他)

参加費 3,000円(昼食代は含みません)

後 援 奈良新聞社/産経新聞奈良支局/朝日新聞奈良総局/中日新聞奈良支局
毎日新聞奈良支局/共同通信社奈良支局/日本経済新聞社奈良支局
時事通信社奈良支局/読売新聞奈良支局/奈良テレビ放送/NHK奈良放送局

協 力 奈良県 奈良県教育委員会



1 日程

時間	内 容			
8:00	要員集合（市民会館ロビー）			
8:45	全体会受付			
9:15	オープニング（NPO法人サロン ドゥ キッズ ネットのみなさん21名による歌と演奏）			
9:30	全体会 開会の言葉 主催者あいさつ（実行委員会・開催地代表） 来賓あいさつ・来賓紹介・役員紹介			
9:55	特別報告 「差別街宣」に対する取組について			—この後、来賓退席—
10:05	基調提案			
10:20	記念講演			
11:45	昼食休憩・移動 分科会協力者打合せ（各控室 ※昼食用意）			
12:15	分科会要員スタンバイ（各任務場所）			
12:30	受付／天理市民会館 中央公民館		受付／天理市文化センター	
13:00	第1分科会		第2分科会	
	第3分科会		第4分科会	
	フィールドワーク ★13:00集合			
16:30	閉会あいさつ・解散 ※16:30には終了し、即刻後片付けを行い、5:00には撤去する。			

2 全体会行事の流れ

※司会（酒井ひとみさん）・手話通訳（奈良県手話通訳派遣センター）・要約筆記（ほっとねっと）

8:45 受付開始

9:15 オープニング

9:30 開会

- | | | |
|-------------|--------------------|--------|
| 1 開会の言葉 | (司会者 酒井ひとみさん) | |
| 2 主催者あいさつ | 実行委員長 | 川口正志 |
| 3 開催地代表あいさつ | 天理市長 | 南 佳策さん |
| 4 来賓あいさつ | 奈良県くらし創造部長 | 影山 清さん |
| 5 来賓紹介 | 開催地天理市長 | 南 佳策さん |
| | 奈良県くらし創造部長 | 影山 清さん |
| | 市町村人権・同和問題「啓発連協」会長 | 南 佳策さん |
| | 奈良県教育委員会教育次長 | 吉田育弘さん |
| | 奈良県議会議長 | 上田 悟さん |
| | 天理市議会議長 | 三橋保長さん |

6 祝電披露（揭示）

- | | | |
|-------------|--------|---|
| 7 実行委員会役員紹介 | 実行委員長 | 部落解放同盟奈良県連合会執行委員長
川口正志 |
| | 副実行委員長 | 奈良県市町村人権・同和問題「啓発連協」副会長
斑鳩町長 小城利重（公務のため欠席）
財団法人たんぼぼの家常務理事
村上良雄
奈良県人権教育推進協議会会長
大寺和男
部落解放同盟奈良県連合会書記長 副牽張
辻本正教
天理市市民部長
山中達生
部落解放同盟奈良県連合会天理市支部協議会議長
吉村安雄 |
| | 会計 | 奈良県市町村人権・同和問題「啓発連協」事務局長
成田 進 |
| | 監事 | 奈良県社会福祉協議会常務理事
一柳 茂
奈良県中小企業連合会専務理事
米川善通 |
| | 事務局長 | 財団法人 奈良 人権・部落解放研究所理事長
寺澤亮一 |

9:55 8 特別報告 「差別街宣」に対する取組について

部落解放同盟奈良県連合会書記長 伊藤 満さん

—ご来賓退席—

10:05 9 基調提案 事務局長 寺澤亮一

10:20 10 記念講演 作家 田口ランディさん

11:45 お礼のあいさつ 全体会終了

3 全体会任務分担

任務	任務内容	責任者	担当者
実行委員会本部	集会実務に関する総務・連絡 消防署、保健所、警察、病院等への連絡 等	寺澤	伊藤・大平
総務・進行	全体会の進行補佐・アトラクション対応 壇上関係者の調整・連絡、報道対応 等	伊藤 大平	寺尻・東阪・川端・古川(講師送迎)
受付	全体会受付・資料配付・弁当配布及び箱 集め・記念講演等の受付、参加票の集約 ・整理等 ★支部受付・天理受付は担当者をおく。	坂本	藤永・内田・中田・加護・仲川直 山口・森本・俵本和・東田・杉本
来賓受付・接待	来賓役員等の受付・案内・接待、講師接 待、手話・要約筆記の関係者受付案内 報道関係者受付、弁当対応 等	仲川雅	上村・江口・川崎・中川・俵本直
会場案内	各会場（控室等）の設営と後かたづけ かさ袋配布、全体会の会場整理・誘導・ 案内、ゴミ箱・灰皿の点検・整理 人権展の管理、弁当対応 等 ★託児・救護対応	立花	川田・吉井・北嶋・北川・岡本 村尾
庶務・経理	集会開催に伴う出納、経理事務、物品購 入・事務用品の管理、当日券の販売、弁 当券の対応、図書販売等	陶山	中尾・研究所吉岡・西村
取材・写真等	全体会の取材・写真撮影・録音	田中	佐々木
託児		ボランティアスタッフ	菅田さん

★要員として配置されていない職員の方は大会に参加してください。

①事務局集合時刻／8：00

集合場所／市民会館ロビー ※8：00に打合せを行います。その後各パートで準備作業
駐車場はシルバー人材センター前駐車場を利用してください（地図参照）。

（付近住宅地のため、迷惑にならないように配慮願います。台数に限りがあるため、乗り合わせてください）
服装／ジーパン不可・クールビズです。

②全体的に

- ★現地の要員と連携・協力して任務にあってください。
- ★参加者・大会関係者等へのていねいな対応に努めてください。
- ★任務の動向を見ながら全体会に積極的に参加してください。

③緊急連絡

伊藤 090-2356-4748
陶山 090-1893-6991
大平 090-7877-7585

④会場割り当て

役員・来賓控室／市民会館 1 F 楽屋（大）
講師の田口さん控室／市民会館 1 F 控室
司会・要約筆記控室／市民会館 1 F 化粧室
手話通訳控室／市民会館 1 F 楽屋（小）
託児（希望者 1 人）／市民会館 2 F 託児室 ※ボランティアスタッフ 菅田さんが対応
人権相談／市民会館 2 F 洋室（2）
なんでも法律相談／市民会館 2 F 洋室（3）
サロンドゥキッズネット控室／市民会館 2 F 和室（1）（2）（3）

※役員・来賓・講師・手話・要約筆記・司会者控室ではお茶を準備しますので、担当者は確認の上、対応してください。

受付／市民会館 1 F ロビー（ホワイエ）

（一般・来賓・役員・手話通訳・要約筆記・司会者・報道関係者・当日券販売・弁当支払い・天理市・支部受付）

- 参加券を忘れた人、持っていない方は当日券販売へ案内してください。なお、天理市の方で参加券を持っていない方は「天理市受付」に案内してください。
- 解放同盟の参加者は支部受付で対応してください。
- 救護については連絡窓口にご報告してください。連絡窓口担当は報告があり次第、事務局（大平）まで連絡をお願いします。

⑤講演者 田口さんへの対応

ホテルまでの迎え／古川 9:00 奈良倶楽部

⑥弁当について

11:00頃に弁当が届きますので、要員は速やかに昼食をとってください。

★ホール内は飲食禁止ですので、ロビー、館外で弁当を食べるように指示願います。

※午後の天理市文化センターでの分科会要員が移動するため、全体会場での弁当の配布・片づけは担当に限らず対応してください。

- ▶ 役員・手話通訳・要約筆記・託児スタッフ・司会者・講演者・分科会講師（第1・2分科会）にそれぞれ弁当を配布してください（来賓等の受付担当）。
- ▶ 天理市文化センターで開催される分科会協力者・要員は天理市文化センターで昼食をとってください。（11:30には天理市文化センターに弁当が配達されますので、記念講演終了前後に移動してください）

⑦託児について

9月20日時点で希望者は1人です。当日受付は基本的には行いません。

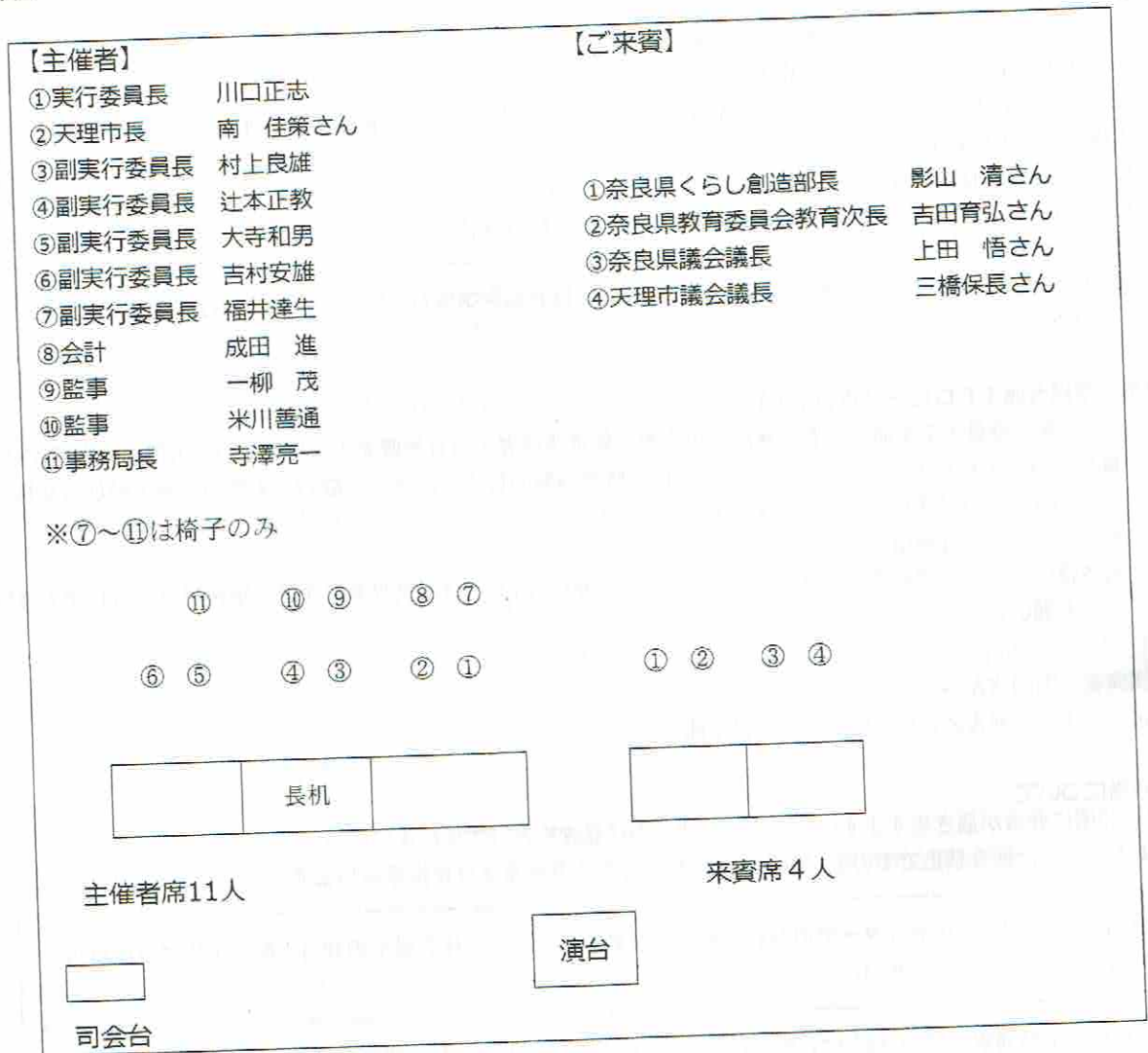
午前9:00に託児受付に子どもと保護者が来られますので、託児スタッフにとりついてください。

⑧その他

- ・連絡用OHPは天理市が対応します。
- ・手話通訳、要約筆記担当者、司会者は県連仲川が対応します。
- ・マスコミの一次対応は県連仲川とします。
- ・全体会終了後、市民会館ホールは第1分科会の準備に入りますので協力願います。
- ・駐車場関係／案内図参照

4 全体会場配置図

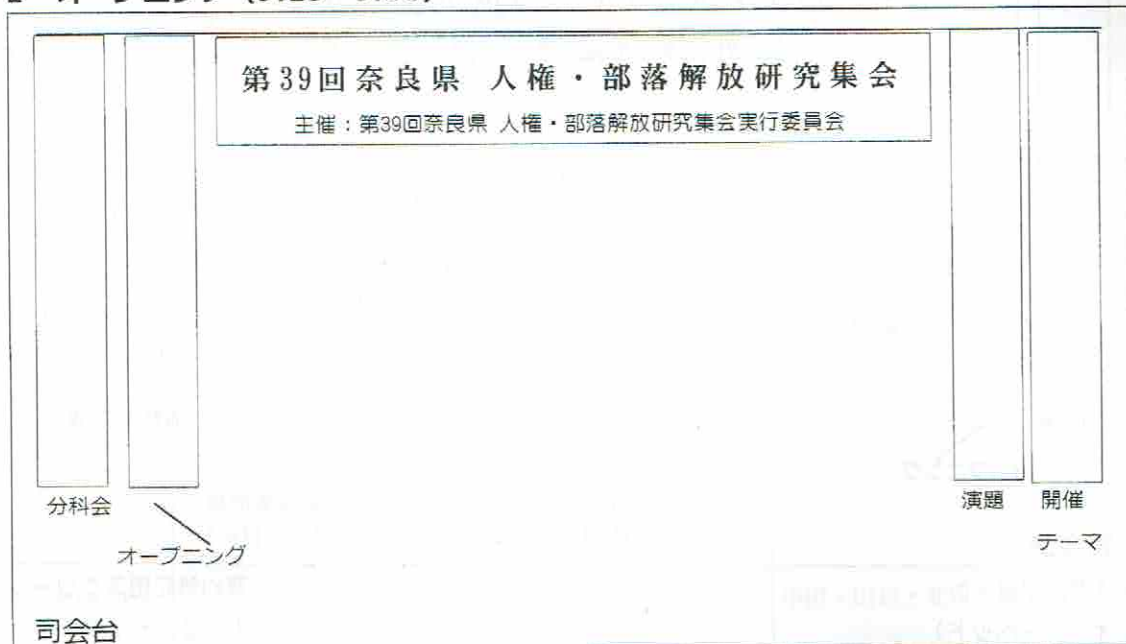
座席図



客席

第39回奈良県 人権・部落解放研究集会全体会舞台配置

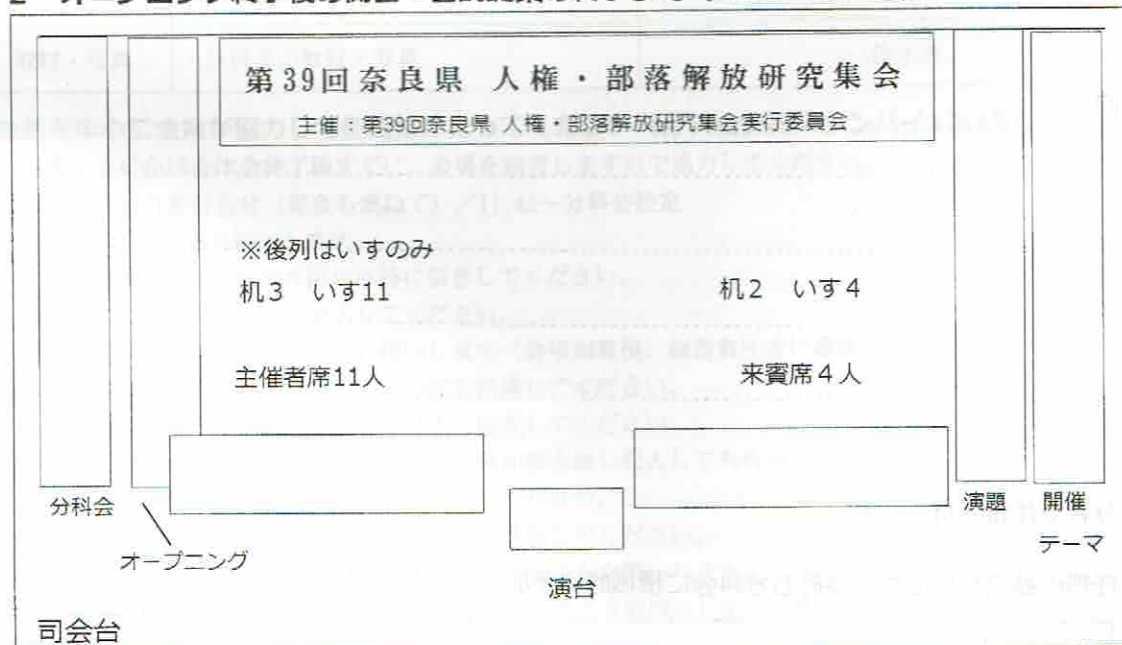
1 オープニング (9:15~9:30)



連絡用スクリーン
(オーバーヘッド)

要約筆記用スクリーン
(プロジェクター・
パソコン)

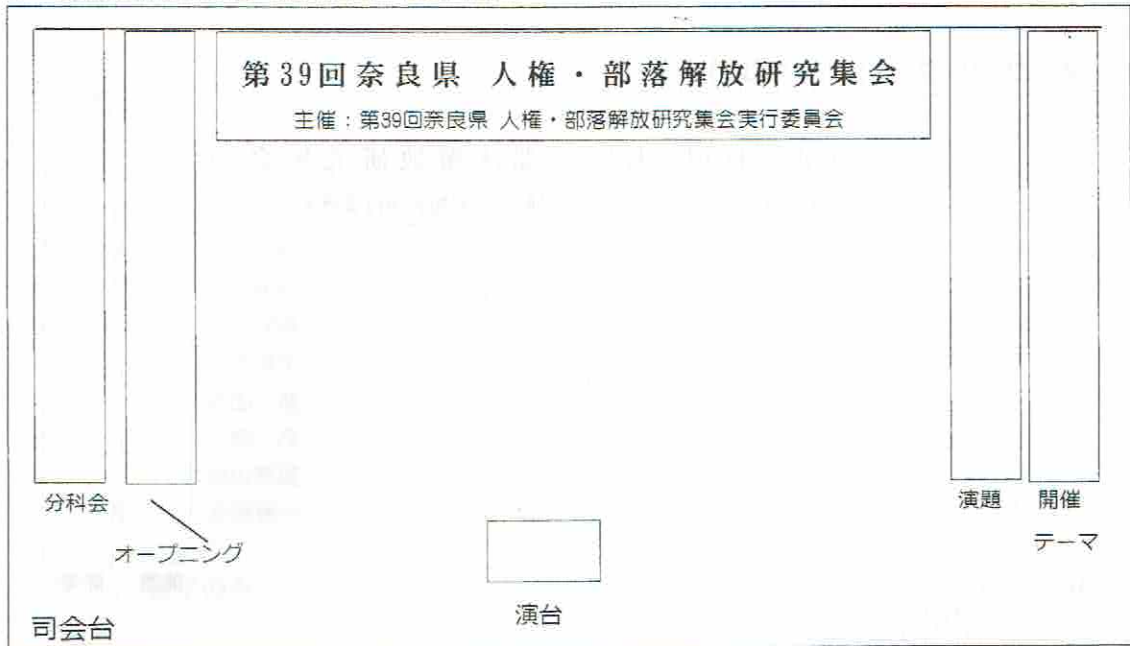
2 オープニング終了後の開会～基調提案の終了まで (9:30~10:20)



連絡用スクリーン
(オーバーヘッド)

要約筆記用スクリーン
(プロジェクター・
パソコン)

3 記念講演の舞台 (10:20~11:45)



連絡用スクリーン
(オーバーヘッド)

要約筆記用スクリーン
(プロジェクター・
パソコン)

MEMO

.....

.....

.....

.....

5 分科会任務分担

任務の動向を見ながら要員も分科会に積極的に参加してください。

※天理市の要員と連携・協力して任務にあたってください。
※要員として配置されていない職員の方は分科会に参加してください。
※分科会の運営はそれぞれの分科会で責任をもって行うことを基本としますが、緊急時には速やかに下記まで連絡してください。

緊急連絡 第1・2分科会 陶山 090-1893-6991
第3・4分科会 大平 090-7877-7585

第1分科会/会場…市民会館ホール（全体会場を使用）

若者の現状と自立への課題

コーディネーター（1）/奈良県人権教育推進協議会 大寺和男さん
 パネリスト（4） /奈良県くらし創造部人権施策課 鍵田徳光さん
 社団法人GARDEN 久世恭詩さん
 若者サポートステーションやまと 原田秀昭さん・藪田 弘さん

任務	任務内容	責任者	担当者
総務	<ul style="list-style-type: none"> ・分科会の業務に関する総括 ・大会本部への連絡（緊急時） ・分科会の内容録音 ★プロジェクトの設置（研究所所有） ・全体の司会 ・謝礼関係 	陶山	寺尻・川端
受付・会場・案内	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の受付 ・（当日券の販売） ・集会レジュメ、資料等の配布・管理 ・会場の設営と後かたづけ ・会場整理 ・会場の点検整備 ・ゴミ箱の点検 ・アンケート回収 	上村	中田・山口・北川・俵本和
関係者接待	・分科会関係者の案内・接待		中川
取材・写真	・分科会の取材・写真		佐々木

■総務を中心に全員が協力して任務にあってください（分科会要員スタンバイ12:15）。

※第1分科会は全体会終了後すぐに、会場を設営しますので協力してください。

※分科会協力者打合せ（昼食も兼ねて）/11:45～分科会控室

- ・総務は全体の総括をお願いします。
- ※謝礼関係、録音、緊急連絡には特に留意してください。
- ※タイムキーパーを決めて対応してください。
- ・手話通訳は手話通訳名簿で対応をお願いします（会場到着後、総務責任者に連絡してください）。
- ・受付、会場、案内担当者は協力して参加者を誘導してください。
- ・アンケートは受付で配付し、出来るだけ多く回収してください。
- ・参加券を忘れた方、参加券がない人は分科会参加票を渡し記入してもらってください。
- ※天理市民の場合は天理市の受付に案内してください。
- ・救護の対応が必要になった場合、総務責任者へ連絡してください。
- ・分科会終了後は片付けをしてください（人権展の撤去もお願いします）。
- ・解散は市民会館・中央公民館の分科会業務がすべて終了次第指示します。概ね17:00とします。

■控室等

- ・分科会協力者、手話通訳/市民会館2F洋室（1）
- ・受付/全体会と同じ（ホワイエ）

MEMO

第2分科会/会場・・・中央公民館大会議室（収容人数 約70人）

深刻化する貧困問題と豊かな社会づくりへの課題

コーディネーター（1）/財団法人たんぼの家 村上良雄さん
 パネリスト（3） /ビッグイシュー日本 吉田耕一さん
 奈良総合法律事務所 弁護士 佐々木育子さん
 生活支援センターもちつもたれつ 大竹美知世さん

任務	任務内容	責任者	担当者
総務	・分科会の業務に関する総括 ・大会本部への連絡（緊急時） ・分科会の内容録音 ★プロジェクトの設置（県連所有） ・全体の司会 ・謝礼関係	仲川雅	古川
受付・会場・案内	・参加者の受付 ・（当日券の販売） ・集会レジュメ、資料等の配布・管理 ・会場の設営と後かたづけ ・会場整理 ・会場の点検整備 ・ゴミ箱の点検 ・アンケート回収	藤永	東阪・岡本・森本
関係者接待	・分科会関係者の案内・接待	研究所吉岡	
取材・写真	・分科会の取材・写真	佐々木	

■総務を中心に全員が協力して任務にあたってください（分科会要員スタンバイ12:15）。

- ※分科会協力者打合せ（昼食も兼ねて）/11:45～分科会控室
- ・総務は全体の総括をお願いします。
 - ※謝礼関係、録音、緊急連絡には特に留意してください。
 - ※タイムキーパーを決めて対応してください。
- ・手話通訳は手話通訳名簿で対応をお願いします（会場到着後、総務責任者に連絡してください）。
- ・受付、会場、案内担当者は協力して参加者を誘導してください。
- ・アンケートは受付で配付し、出来るだけ多く回収してください。
- ・参加券を忘れた方、参加券がない人は分科会参加票を渡し記入してもらってください。
 - ※天理市民の場合は天理市の受付に案内してください。
- ・救護の対応が必要になった場合、総務責任者へ連絡してください。
- ・分科会終了後は片付けをしてください（人権展の撤去もお願いします）。
- ・解散は市民会館・中央公民館の分科会業務がすべて終了次第指示します。概ね17:00とします。

■控室等

- ・分科会協力者、手話通訳/中央公民館3F小会議室（2）
- ・受付/中央公民館3F大会議室前ロビー

MEMO

第3分科会/会場...文化センター文化ホール

連鎖する差別の解消に向けたまちづくりの課題

コーディネーター(1) / 部落解放同盟奈良県連合会 辻本正教さん
 パネリスト(3) / 奈良県立同和問題関係史料センター 井岡康時さん
 奈良県地域生活定着支援センター 上田邦晶さん
 部落解放同盟奈良県連合会 伊藤 満さん

任務	任務内容	責任者	担当者
総務	<ul style="list-style-type: none"> 分科会の業務に関する総括 大会本部への連絡(緊急時) 分科会の内容録音 全体の司会 謝礼関係 	坂本	吉井
受付・会場・案内	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の受付 (当日券の販売) 集会レジュメ、資料等の配布・管理 会場の設営と後かたづけ 会場整理 会場の点検整備 ゴミ箱の点検 アンケート回収 	内田	北嶋・川崎・加護
関係者接待	分科会関係者の案内・接待		杉本
取材・写真	分科会の取材・写真		田中

■総務を中心に全員が協力して任務にあってください(分科会要員スタンバイ12:15)。

- ※分科会協力者打合せ(昼食も兼ねて) / 12:00~分科会控室
- 総務は全体の総括をお願いします。
- ※謝礼関係、録音、緊急連絡には特に留意してください。
- ※タイムキーパーを決めて対応してください。
- 手話通訳は手話通訳名簿で対応をお願いします(会場到着後、総務責任者に連絡してください)。
- 受付、会場、案内担当者は協力して参加者を誘導してください。
- アンケートは受付で配付し、出来るだけ多く回収してください。
- 参加券を忘れた方、参加券がない人は分科会参加票を渡し記入してもらってください。
- ※天理市民の場合は天理市の受付に案内してください。
- 救護の対応が必要になった場合、総務責任者へ連絡してください。
- 分科会終了後は片付けをしてください。
- 解散は文化センターの分科会業務がすべて終了次第指示します。概ね17:00とします。

■控室等

- 分科会協力者、手話通訳 / 文化センター4F視聴覚室(第4分科会と同じ)
- 受付 / 文化センター3F文化ホールロビー

MEMO

第4分科会/会場・・・文化センター展示ホール（収容人数 約90人）

虐待を起こさない社会づくり・人づくりへの課題

コーディネーター（1）/市町村人権・同和問題「啓発連協」 成田 進さん

パネリスト（3） /社会福祉法人ちいろば会 富田忠一さん

児童養護施設大和育成園 岡田 悟さん

社会福祉士・ケアマネージャー 伊織道子さん

任務	任務内容	責任者	担当者
総務	<ul style="list-style-type: none"> 分科会の業務に関する総括 大会本部への連絡（緊急時） 分科会の内容録音 プロジェクターの設置（天理市所有） 全体の司会 謝礼関係 	大平	仲川直
受付・会場・案内	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の受付 （当日券の販売） 集会レジュメ、資料等の配布・管理 会場の設営と後かたづけ 会場整理 会場の点検整備 ゴミ箱の点検 アンケート回収 	川田	江口・村尾・俵本直
関係者接待	分科会関係者の案内・接待		中尾
取材・写真	分科会の取材・写真		田中

■総務を中心に全員が協力して任務にあってください（分科会要員スタンバイ12:15）。

※分科会協力者打合せ（昼食も兼ねて）/12:00～分科会控室

- ・総務は全体の総括をお願いします。
- ※謝礼関係、録音、緊急連絡には特に留意してください。
- ※タイムキーパーを決めて対応してください。
- ・手話通訳は手話通訳名簿で対応をお願いします（会場到着後、総務責任者に連絡してください）。
- ・受付、会場、案内担当者は協力して参加者を誘導してください。
- ・アンケートは受付で配付し、出来るだけ多く回収してください。
- ・参加券を忘れた方、参加券がない人は分科会参加票を渡し記入してもらってください。
- ※天理市民の場合は天理市の受付に案内してください。
- ・救護の対応が必要になった場合、総務責任者へ連絡してください。
- ・分科会終了後は片付けをしてください。
- ・解散は文化センターの分科会業務がすべて終了次第指示します。概ね17:00とします。

■控室等

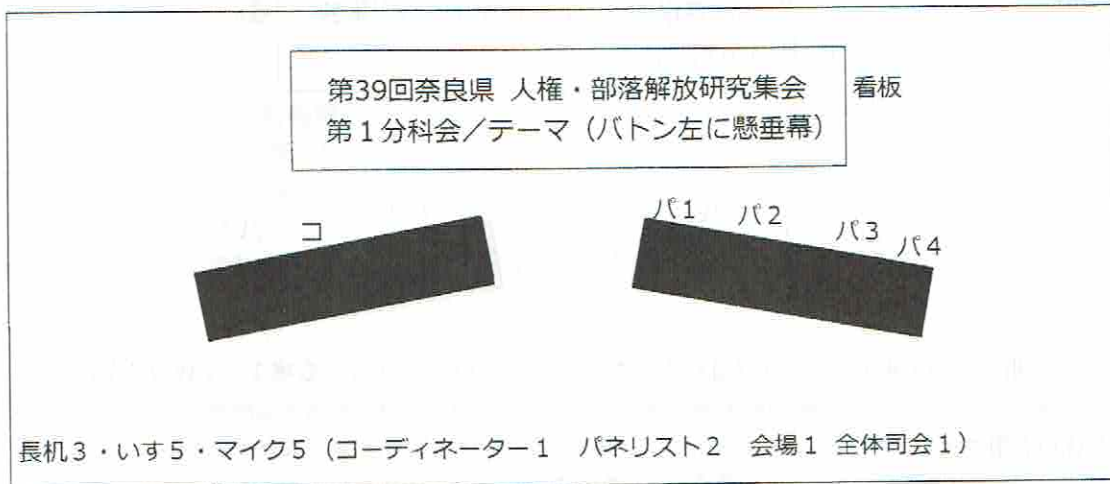
- ・分科会協力者、手話通訳/文化センター4F視聴覚室（第3分科会と同じ）
- ・受付/文化センター1F展示ホール内（入口）

MEMO

第39回奈良県 人権・部落解放研究集会 分科会会場レイアウト (舞台設営)

第1分科会 天理市民会館

(コーディネーター1人・パネリスト4人・手話通訳)



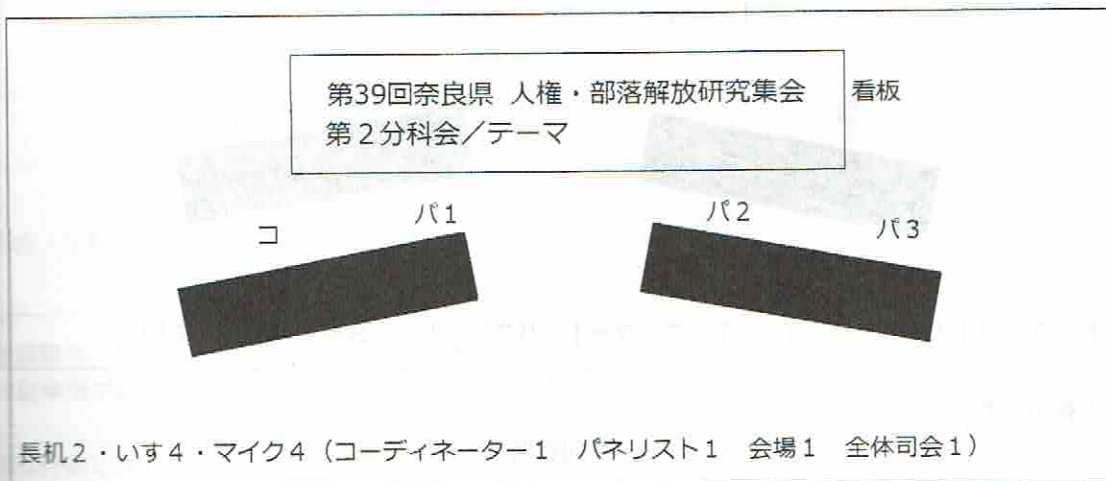
全体司会用マイク

参加者席

- プロジェクターでパソコンデータを表示します。スクリーンは舞台中央に設置します。
- 受付場所は全体会と同じ。

第2分科会 天理市立中央公民館

(コーディネーター1人・パネリスト3人・手話通訳)



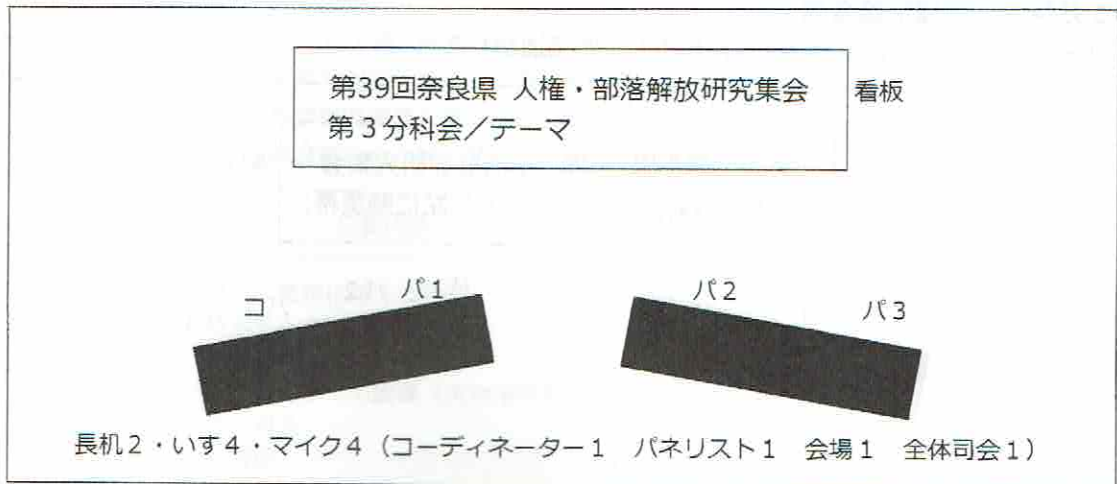
全体司会用マイク

参加者席

- プロジェクターでパソコンデータを表示します。スクリーンは中央の壁を使用します。
- 受付場所は大会議室前のロビーです。

第3分科会 天理市文化センターホール

(コーディネーター1人・パネリスト3人・手話通訳)



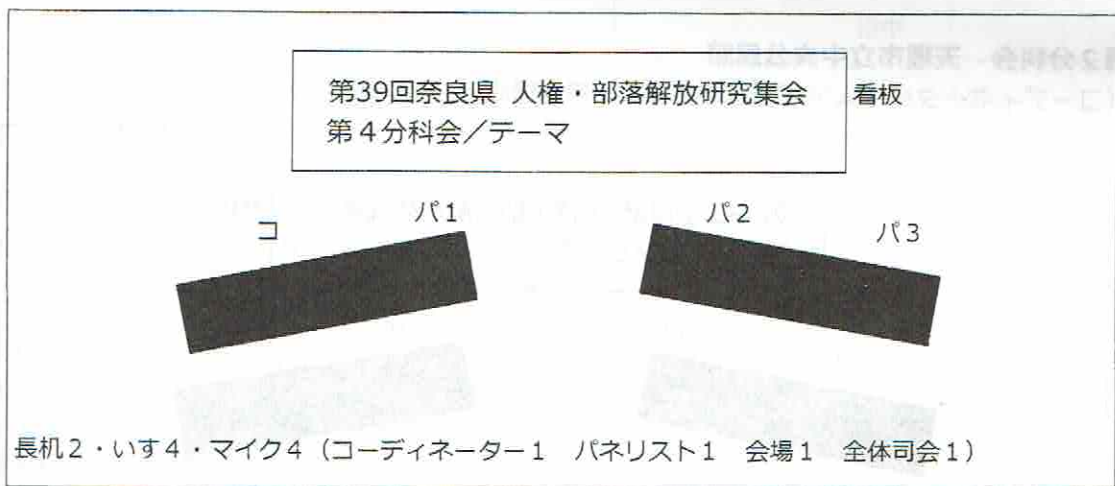
全体司会用マイク

参加者席

- 受付場所はホールロビーです。
- プロジェクターは使用しません。

第4分科会 天理市文化センター展示ホール

(コーディネーター1人・パネリスト3人・手話通訳)



全体司会用マイク

参加者席

- プロジェクターでパソコンデータを表示します。
- 受付場所 (会場内 入口付近)

6 なんでも法律相談・人権相談

任務内容	責任者	担当者
相談者・弁護士・人権擁護委員との連絡調整	立花	東田

■スタンバイ/12:50 各会場前

- ・法律相談会場…市民会館2F洋室(3)
- ・人権相談会場…市民会館2F洋室(2)

※法律相談希望者は現在1名です。午後1:00に来場され次第、責任者にとりつぎます。

当日希望者を募ります。

※人権相談は当日対応です。

★法律相談の担当、南都総合法律事務所の弁護士 小椋和彦さんは12:00に受付に来られます(立花対応)。

その後、弁当を持って相談会場に行ってください(待機していただく)。

人権相談の担当、天理市の人権擁護委員さんについては弁当は不要です。

★当日対応については、一応15:00までとします。15:00時点で相談者がいない場合、終了とします。片づけ等を行ってください。

7 フィールドワーク「天理市内の人権ゆかりの地探訪」

講師/奈良県立同和問題関係史料センター 奥本武裕さん

目的/天理市内には、多くの史跡や文化財が残されています。また、ふだん何気なく見過ごしているような所からも、人びとの生活や信仰、地域社会の仕組みを知ることができ、そこから、地域社会における交流・共同、忌避・排除の様相を学ぶことが出来ます。
こうした史跡や文化財を訪ね、人権の確立された社会を築いていくための道筋を探っていきます。

任務	担当者
集合・出発・随行	研究所スタッフ 西村

■要員集合/13:00 JR長柄駅 解散は柳本駅です!

※駐車場がありません。公共交通機関を利用してください。

服装は行動しやすいもので対応してください。

解散は16:00の予定です。その後、市民会館に集合してください。

おもな見学地

▶大和神社

周辺9ヶ村の宮郷(大和郷)によって祭祀されてきた。ちゃんちゃん祭は、毎年4月1日に執り行われ、二基の神輿を中心とした行列が中山の御旅所(大和雅宮神社)まで渡御する。

▶ 柳本郷墓

中世に遡ると考えられる墓地で、江戸時代後半には周辺10ヶ村の郷墓であり、墓地の管理や葬送に従事する三昧聖が住していた。

▶ 黒塚古墳・柳本陣屋跡

平成9年（1997）から翌年にかけての調査で三角縁神獣鏡が33面出土したことにより注目された前方後円墳。江戸時代には柳本藩の陣屋が古墳の周囲に造られ、その西側に陣屋町が築かれた。

▶ 安政大地震慰霊碑

嘉永7年（安政元、1854）に発生した安政伊賀地震、安政東海地震、安政南海地震、翌年の安政江戸地震の犠牲者の追悼のために地域の人びとによって建立された慰霊碑。

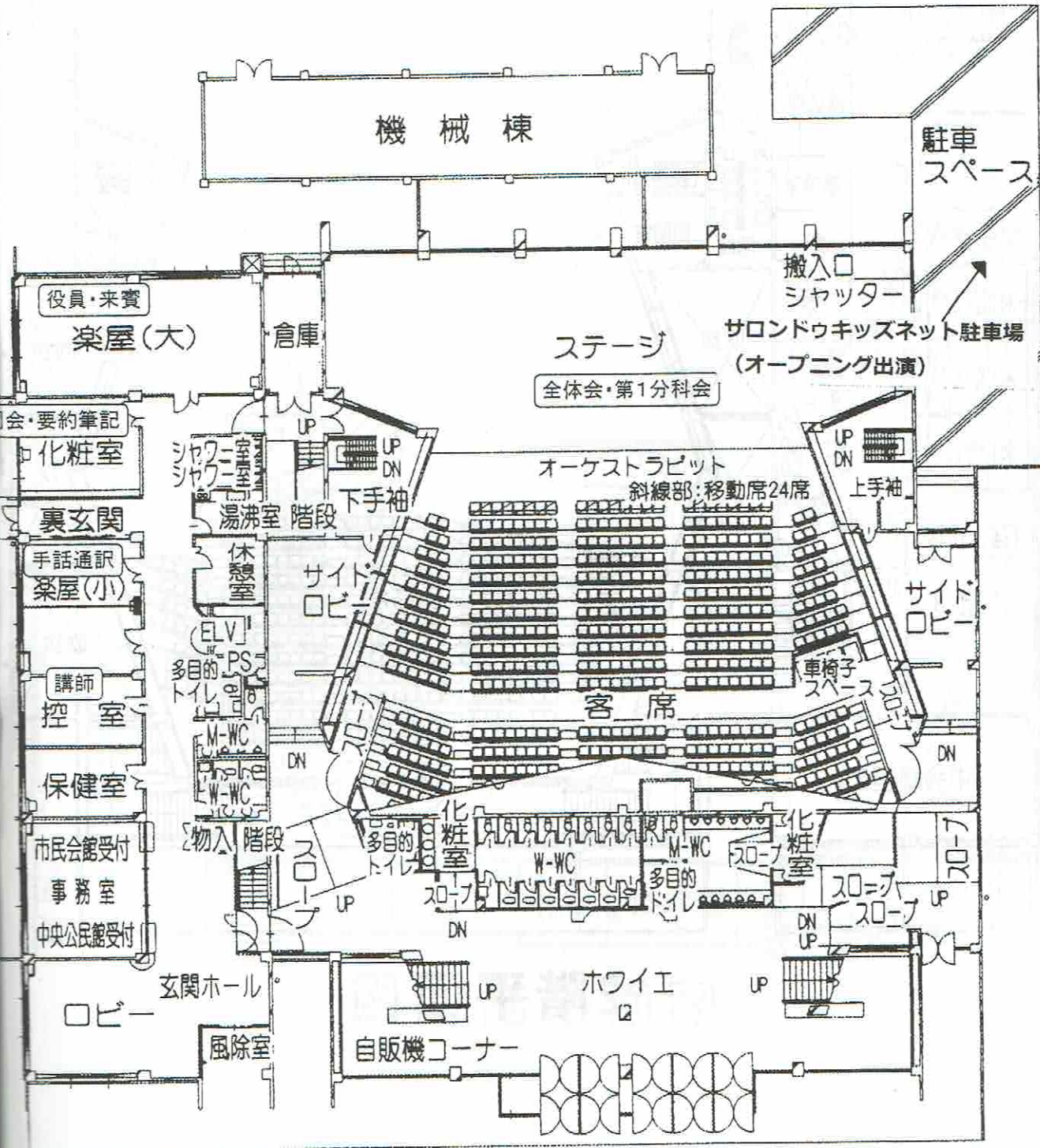
■ 緊急時について

事務局大平に連絡を入れてください。

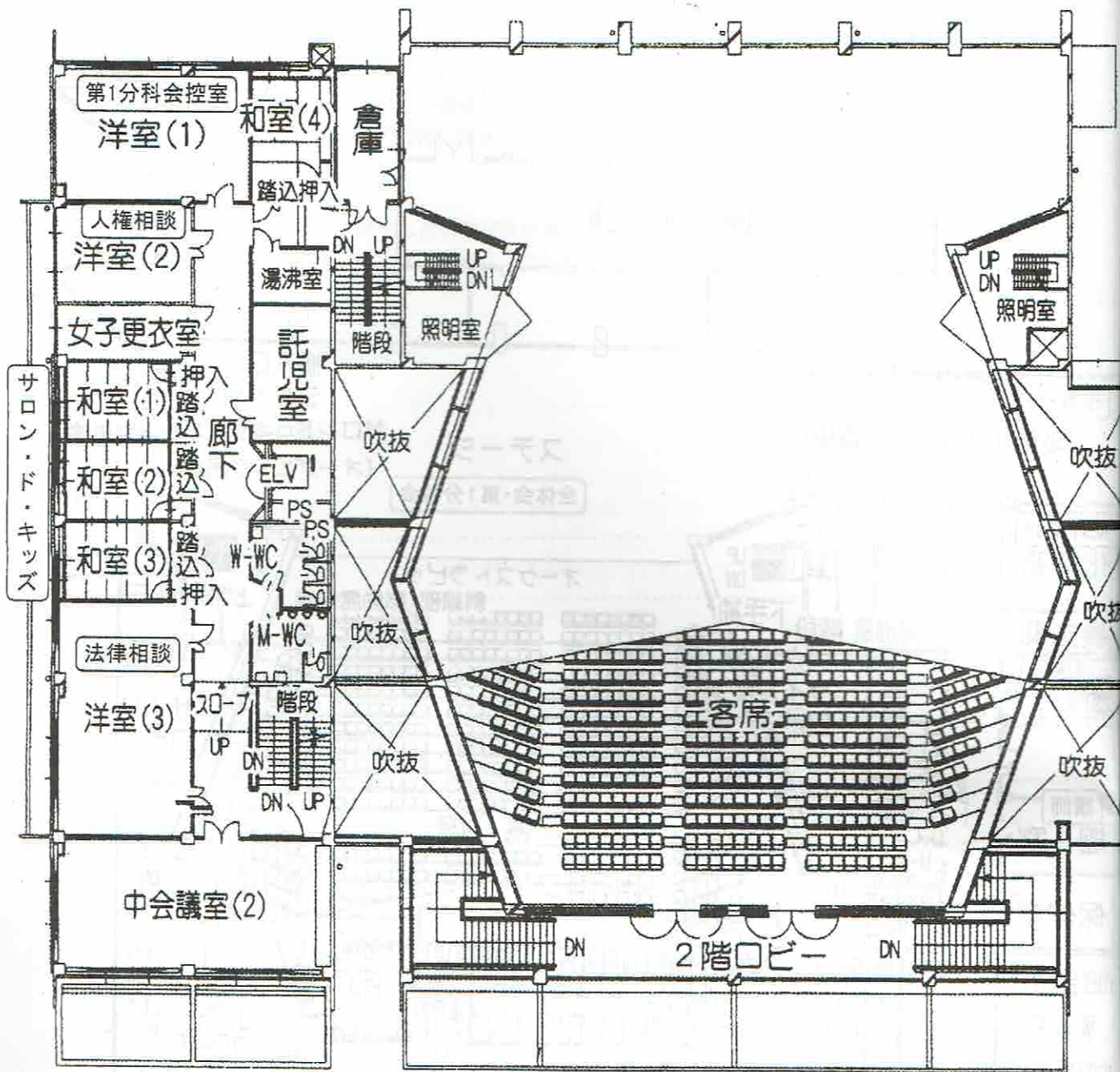
MEMO

会場について

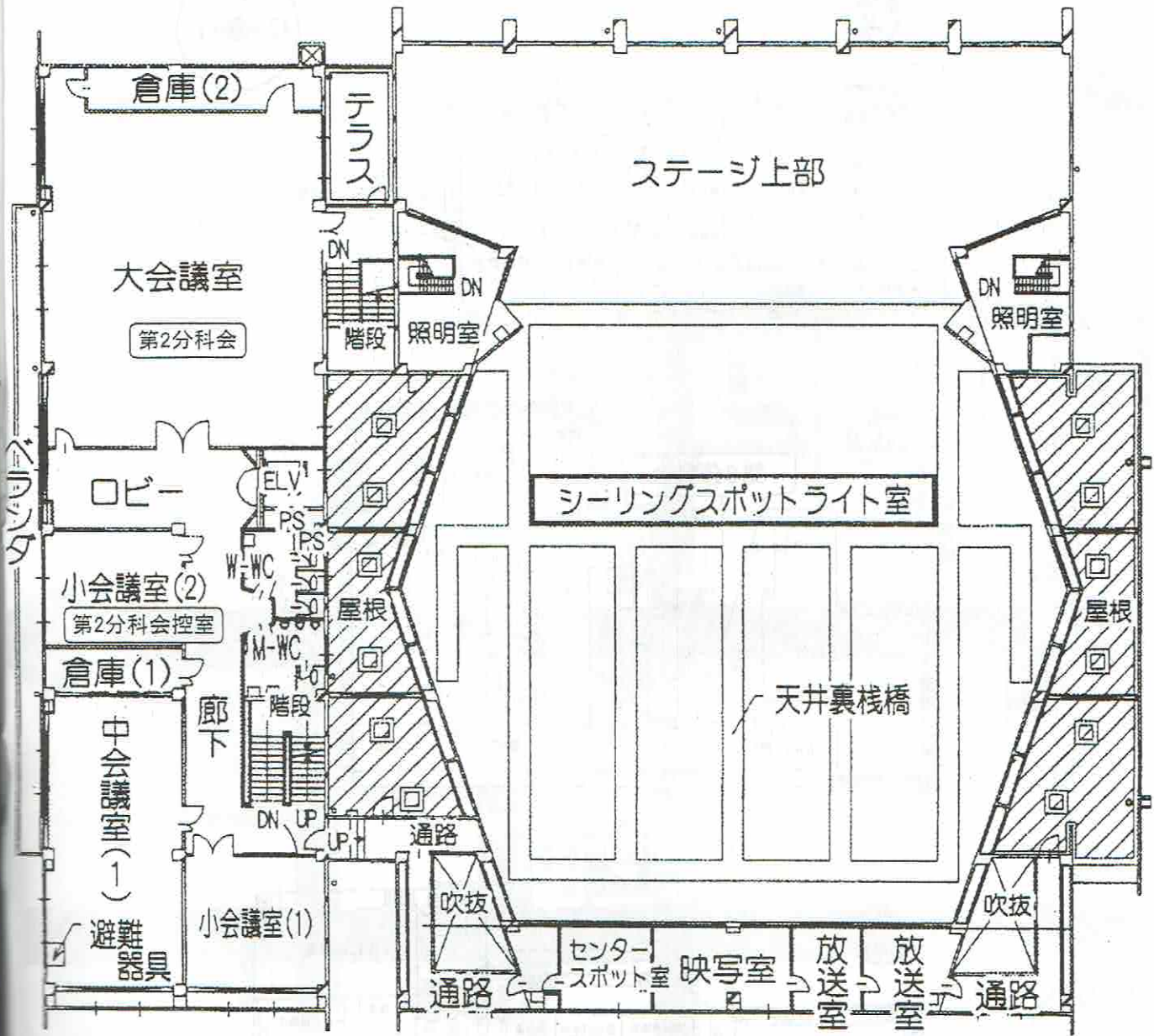
1 天理市民会館



1階平面図



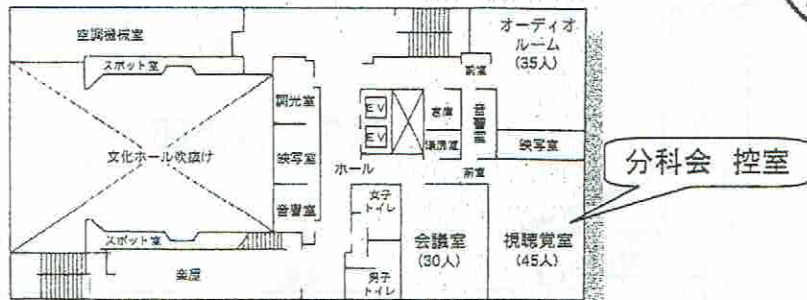
2階平面図



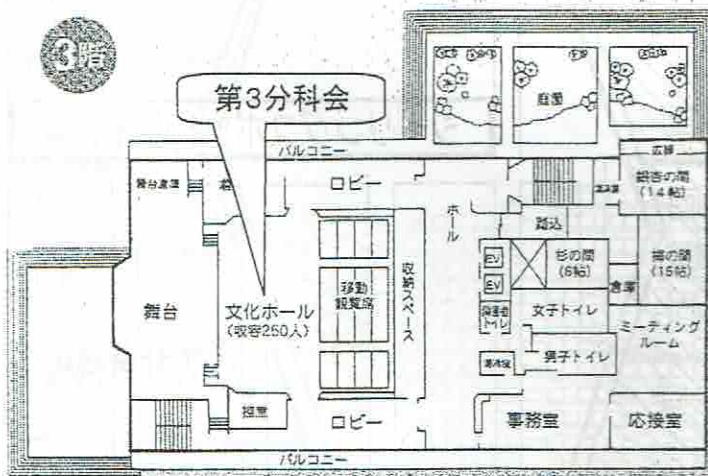
3階平面図

3 天理市文化センター

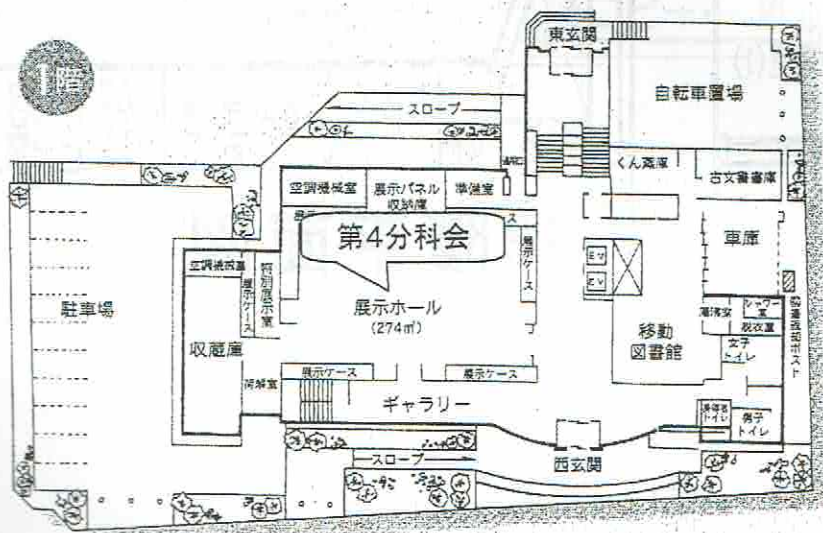
4階



3階



1階



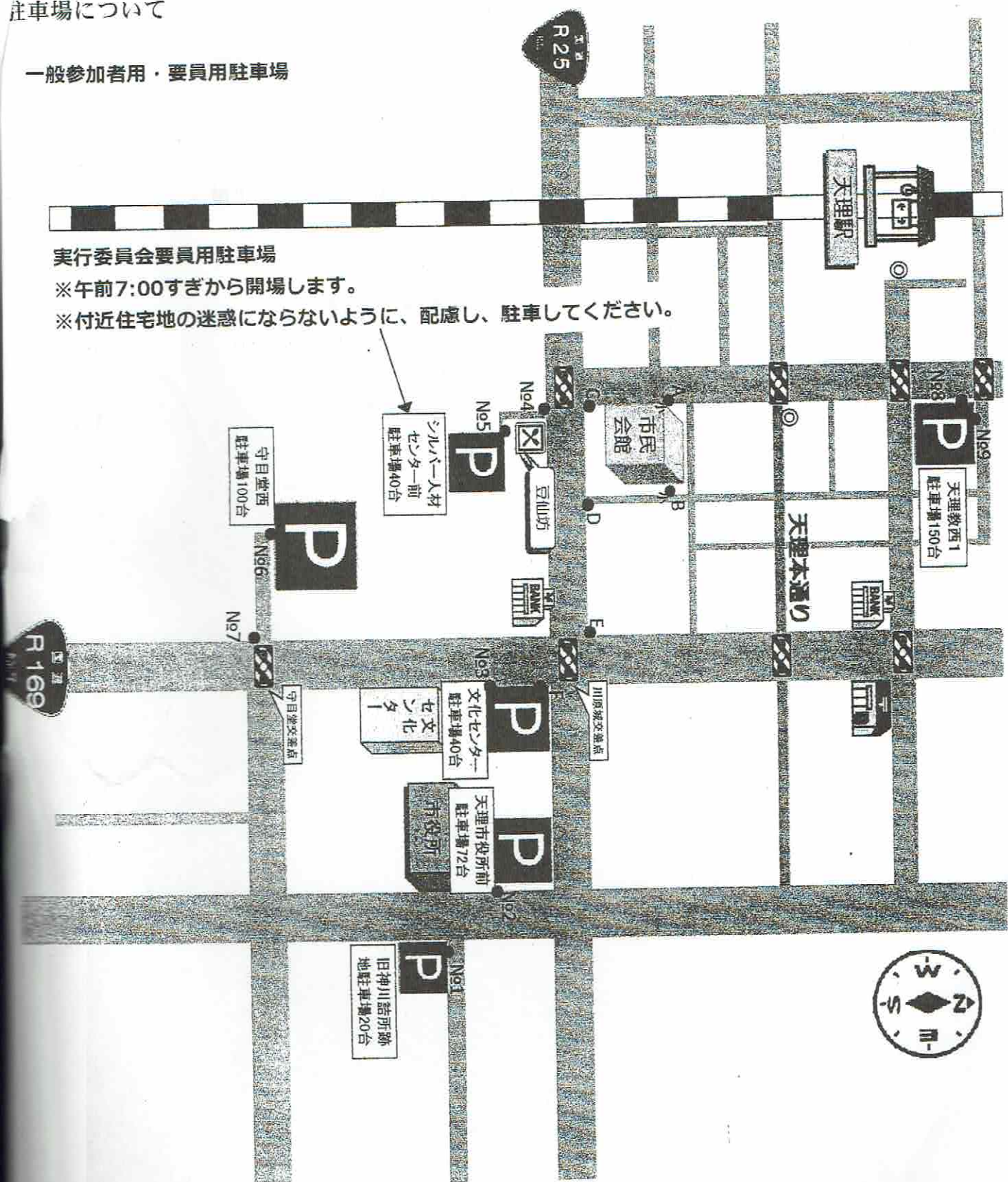
駐車場について

一般参加者用・要員用駐車場

実行委員会要員用駐車場

※午前7:00すぎから開場します。

※付近住宅地の迷惑にならないように、配慮し、駐車してください。



第39回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会 総会

- 1 はじめに
- 2 第39回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会 代表 あいさつ
- 3 研究集会開催地 天理市 あいさつ
- 4 自己紹介
- 5 第38回研究集会総括（別紙参照）
- 6 第39回研究集会について
- 7 議長選出
- 8 協議
案件 (1) 第38回奈良県 人権・部落解放研究集会決算報告
(2) 監査報告
(3) 第39回奈良県 人権・部落解放研究集会役員（案）
(4) 事務局（案）
(5) 予算（案）
- 9 意見交流
- 10 おわりに

2012年5月24日（木）
天理市役所

第38回奈良県 人権・部落解放研究集会 総括資料

1 主な経過報告

- 3月25日(金) 奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会役員会 (奈良県社会福祉総合センター)
- 5月2日(月) 第38回研究集会検討委員会 (奈良県解放センター)
23日(月) 事務局会議 (奈良県解放センター)
24日(火) 第38回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会総会 (桜井市役所)
事務局会議 (桜井市役所)
- 6月16日(木) 事務局会議
17日(金) 研究集会検討委員会・役員会 (桜井市役所)
28日(火) 第1回実行委員会 (桜井市役所)
- 7月8日(金) 桜井市との打合せ
17日(日) 分科会協力依頼 (伊賀市)
27日(水) 実行委員会協力依頼 (桜井市)
- 8月1日(月) 桜井市との打合せ
5日(金) 開催要項配布
桜井市民会館との打合せ
桜井市との打合せ
23日(火) 第2分科会打合せ (奈良県解放センター)
25日(木) 第4分科会打合せ (奈良県解放センター)
31日(水) 第1・第3分科会打合せ (奈良県解放センター)
- 9月5日(月) 桜井市との打合せ
アトラクション打合せ (吉野)
6日(火) フィールドワーク下見
8日(木) 事務局会議
9日(木) 第2回実行委員会 (桜井市役所)
15日(木) 司会打合せ
16日(金) 緊急打合せ ※台風接近による悪天候のため、中止の判断。
各方面への中止連絡
17日(土) 会場待機 (全体会場)
18日(日) 会場待機 (分科会会場)
22日(木) 事務局会議
- 10月4日(月) 役員会 (桜井市中央公民館)
6日(木) 代替行事を各方面へ通知
- 12月1日(木) 代替行事開催要項配布

2012年

- 1月12日(木) 桜井市との打合せ
25日(水) 事務局会議(奈良県解放センター)
研究集会資料詰め
27日(金) 司会打合せ(奈良県解放センター)
28日(土) 会場諸準備(桜井市民会館)
長谷川健一さんとの打合せ(樞原ロイヤルホテル)
29日(日) 第38回奈良県 人権・部落解放研究集会 代替行事
全体会・分科会・フィールドワーク(桜井市)
- 2月2日(木) 事務局会議

2 第38回奈良県 人権・部落解放研究集会 全体会について 1月29日 午前

(1) 参加者数

総勢約700人(参加券集約数 580枚)

(2) 記念講演

①基調提案

基調提案についてアンケートでは6割の参加者が「わかりやすかった」と答えています。

アンケートの記述内容で特筆したいのは、『被災地と奈良をつなぐ』というテーマ(趣旨)がよく伝わった報告(提案)でした。従来からの課題、震災後新たに出てきた課題がわかりやすく、大変勉強になる提案でした。」という意見です。これらの感想から、今研究集会での議論の方向性や課題等が参加者にとって明確になっていたと総括できます。

②記念講演

原発事故の被害当事者の長谷川健一さんのお話は、多くの参加者の心を打ったものになりました。報道されなかった事実も含めて、福島飯館村で起きたさまざまな人間模様が時系列で示され、あらためて事故の甚大さと、国などの対応のずさんさが明らかにされたと思います。

アンケートでは、「福島第一原発事故をめぐる当時の状況、とりわけ避難地区の住民のおかれている状況がよくわかりました。又、講師の長谷川さんの『情けない』という言葉が切実なものとして響きました。また、最後の言葉『差別のない社会・体制づくり』『原発事故を風化させるな』が印象に残りました。」「長谷川さんの地元への熱い思いを感じたとともに、国の頼りなさを感じました。自分も自分のことだけ考えていないか、長谷川さんのようにその地域で生きる人、みんなのことを考えて動くことができるのだろうかと考えました。」という感想が寄せられました。

長谷川健一さん講演録〈概要〉

「奈良から福島原発事故を考えるー放射能汚染にどう向き合うかー」

2012年1月29日（日）桜井市民会館

第38回奈良県 人権・部落解放研究集会全体会

私は福島県飯館村からやってまいりました、長谷川です。昨年は福島県でも放射能、原発の甚大なる被害ということで大変な目に合いましたが、ここ奈良県でも大水害があり犠牲者の方、被災者の方々に心よりお見舞いお悔やみを申し上げます。

私は今回の原発事故の被災者です。我々被災者があじわった苦しみ、悲しみ、憤りなどを実際に体験した中で新聞・テレビなどで放送されない部分をも交えてお話をしたいと思います。よろしくお願いします。

飯館村とは、どういう村だったのか説明していきたいと思います。飯館村は第一原発から一番近い所で約30キロ離れていて、一番遠い所で45キロ地点。この地点が、まさに私の部落です。11月に新聞・テレビが45キロ地点にて、プルトニウムが検出され、30キロ地点でも検出されましたという報道が出されました。ということは、飯館村全部にプルトニウムまで降ってきたということになります。

飯館村の隣に南相馬市という市があります。南相馬市は鹿島町・原町市・小高町の3つが合併した地区です。平成16年、この合併の際に飯館村も合併協議会に入っていました。協議が進むにつれて、どうもおかしいということになったんです。このままでは、やはり飯館村は周辺地区になってしまうと考えたわけです。吸収合併されて市になったとしても、何の得があるのだろう。ならば合併をしないで小さいなりでも飯館村のままでいいんじゃないかという思いで合併協議会を離脱しました。飯館村は飯館村でやっていく、無い物ねだりはしない。飯館村は色々な恵みの宝庫じゃないのかと考えて離脱しました。そしてその頃からみんなで「までいな村づくり」をしていこうと取り組みました。「までい」の言葉の意味は、手間ひまを惜しまず、丁寧に、物事を大切にすることです。そういうものをモットーにして村づくりをしてい

こうという思いがあった村なんです。

現在の村長は、村の執行体制にもの凄い疑問を抱いていて、村民が何を話しても何をお願いをしても聞き入れてもらえないのはダメだ、村民の声を聞きながら共に歩める行政じゃないとダメだという思いで15年前に村長選に立候補しました。私も彼に大賛成をして、選挙の際には出納責任者で彼の右腕になって一生懸命フォローしました。彼は元々酪農家で私も酪農家。同じ仲間でも一生懸命にフォローして、今でも元気で村長をやっています。

一昨年、飯館村は「日本一美しい村づくり」の推薦を受け、見事に認定されました。そのひとつのきっかけとなったのが私の前田部落というところ。私はその区長と福島県の酪農協同組合の理事をやっています。

牛がだんだん少なくなってきて放牧地が荒れてきました。こんな見てもないことをしておけないと、部落の人たちがみんな知恵を出し合って、「わらび園」を始めました。小学校の子どもたち全員を「わらび園」に招待したり、地区の老人会の人たちにわらび採りを一緒にやらしてもらったりして、この前田の部落というものはどういう部落なのか、自然とはどういうものなのか、わらびとは、山菜とはどういうものかということ、を、「1日先生」になって教えました。

「バンカリ」という米をつく施設があります。朝、そこに玄米を入れておくと夕方には白米になっています。これが昔は14カ所ほどあったということなのですが、今は1カ所もありません。部落の人たちみんなの力で、これを再現しました。屋根も全て手造りです。そして、バンカリの裏には遊休農地がありましたが、ここもみんなきれいに片づけてひまわり畑にしました。そういうことが「日本一美しい村づくり」としての認定を受ける、一つのきっかけとなったようです。

去年の3月11日。南相馬市には国道6号線

が走っています。今までは国道6号線から海側を見ても林があり田んぼがあり、畑があり、家があって、海は全く見えませんでした。距離にして、3キロから5キロくらい離れています。しかし今は、まともに海が見える。何もかも無くなりましたから。そして、国道6号線からさらに山寄りの所には、未だに放置されたままの船が残っています。そんな悲惨な状況です。

3月11日、午後2時46分。当時、私は畑で重機に乗って農作業をやっていました。非常に広い畑で約3ヘクタールくらいあります。携帯電話の緊急地震速報がガンガンなるわけです。「これは地震だな」と思って重機を止めた所がすごい揺れなんです。それが長く続いて3ヘクタールの大きな畑がまるで海の波のように揺れていました。「これはすごい地震だな」と思っていたところが、今度は地割れが走ったんです。私も驚いて重機のアクセルをフル回転にして逃げました。安全な所まで行って、すぐに家に戻ってみました。

幸いにして、私の家は屋根瓦が落ちた程度でそんなに大きな被害はありませんでした。私は区長をしているために今度は村全戸を「けが人いないか？被害はどうだ？」とまわりました。家の中に人はほとんどいませんでした。みんな外に出て、車に乗ってラジオつけて状況確認をしていました。家の中だと恐くてとてもいられない。そんな状況で、幸いにして私の部落には怪我人はなかったのです。屋根瓦が落ちたり、石垣が落ちたりという状況だったんです。そしてすぐに村役場に行きました。既に災害対策本部が設置されていましたが、停電になっていて全然状況がわかりません。ラジオとか、そういうものでしか情報源はないんです。

3月12日頃から、飯館村には南相馬市、双葉郡などから被災された人たちが、たくさん押し寄せてきました。一番多い時で、1200人ほどの人が飯館村に押し寄せて来ました。我々は、その避難の人たちに本気になってケアをしました。当時寒かったんです。私は酪農家ですから牛乳を持って行って温めてみんなに飲んでもらいました。猪牧場もやっていたので、猪の肉を持って行き、地区の婦人

会の人たちに野菜を持ってきてもらって、猪鍋を作ってみんなに食べていただきました。こういうことに飯館村の全ての人が携わっていたのです。

停電でしたが、私は自家発電装置を持っていたので自分の家の乳を搾って、次は近くの酪農家の所に発電機を持って行って、そこで搾って、また次の酪農家に持って行って、そこで搾ってということをしていました。そして、家に戻ってきて今度は、家のテレビにその発電機をつないで、情報収集にあたるという状況が続いていました。

そんな中で3月12日。福島第1原発の1号機が爆発しました。ところが、当時「爆発」なんて言いませんでした。国の方では枝野官房長官が「大きな音がしました」と言っているわけです。3月14日午前11時には3号機が爆発しました。それと同時に「30キロ圏内屋内待避」の指示が出ました。飯館村の一部が対象となりました。

夜9時頃、私は村の対策本部に行きました。「一体どうなってんだ、飯館村の線量はどうなんだ。」と言ったところ、たまたまガイガーカウンターで測っている担当者がいたんです。「いや、長谷川さん。今とんでもねえことになってんだぞ。」「とんでもねえ。なんぼあんだ。」「40越してんだぞ。40マイクロシーベルト。」と言っても私はわからない。40マイクロシーベルトというものが、どういう数字なのか。シーベルトとかベクレルとか、そんなことは自分には全然わからなかったんです。村民みんながわからなかったと思います。でも、高いということはわかりました。私はすぐにその部屋を出ようと思いました。その時、彼に呼び止められたんです。「長谷川さん待ってくれ。」「何だ？」「この事誰にも言わないでくれ。」と。「なんだおい。何だその話。」「村長に口止めされてんだ。村長に誰にも言うなって。こう言われてんだ。そういうことなんだよ。」「なに、ふざけんでね。なんちゅうこと言う、とんでもねえべ。」

そして、私はそんなことはお構いなしに地区の5つの班長さんに電話しました。「明日、3月15日、夕方6時半。緊急集会をやるから

全員を集会所に集めろ。」と。

翌3月15日、放射能のことで緊急集会と言われたものですからみんな集まってきました。「今、放射能はとんでもねえことになってからな。とにかく、表には出るな。特に、子どもは絶対外に出すなよ。大人でも外に出なくてなんねえ時には必ずマスクしろ。そして肌は露出すんな。外出から家に戻ったら上着とかは玄関で脱げ。すぐに風呂は入れ。体きれいに洗え。外にある野菜とかは絶対食うなよ。洗濯物は外に干すなよ。換気扇は回すなよ。」

そういう指示を私は出しました。みんなは忠実に守ってくれたようです。

当時から私のもとには沢山のジャーナリストたちが押し寄せてきました。しまいには私の家はジャーナリストの人たちのたまり場になってしまいました。私がそのようにしたのは、情報が欲しかったからです。飯館は山あいの村なので泊まるどころなんてありません。私は彼らを率先して泊めて、彼らはそこから報道に走ったんです。そして、彼らからどんどん情報をもらいました。私の所に来ていたジャーナリストというのは、ソ連のチェルノブイリの事故、インドウラン鉱山、劣化ウラン弾、スリーマイル島などの放射能汚染を専門に取材・報道している人たちでした。

彼らのデータを見ていて1枚の気になる写真が出てきました。私の村の集会所の隣の消防の屯所の写真です。まさに3月15日、3時半か4時頃、飯館村の隣に伊達市布川という地区で、彼らは遅い昼飯を食べていました。そこで線量計で測ったところ、既に50マイクロシーベルトあった、と言うんです。彼らはびっくりして、「これは飯館村の方では多分とんでもねえことになってんじゃねえか。」と飯館村に向かって来たんです。伊達市から飯館村に入るとすぐに私の地区なんです。すぐ集会場があり消防の屯所があるわけで、その場所で彼らは車を停めて線量計を出して測ったんです。線量計は100マイクロシーベルトまでしか測れず、線量計の針が振り切れていたんです。そこで彼らは、その消防屯所の前にある民家に飛び込んで「今、放射能はと

んでもねえことになってど。避難しねかだめだ。」と言ったそうです。ところが、その相手の家にしてみれば、大の男がどかどか入ってきて、「今、放射能が大変なことになってっから、それ避難しろ。」って言われたって、訳がわからないです。きょとんとしていたそうです。

誰も放射能に関してわからなかった。当時、北西の風が吹いていて、まともに飯館をめぐって来たような状況でした。私はジャーナリストの人たちに向かって「同心円じゃおかしいだろう。」と叫び続けました。30キロのラインなんていない。(飯館村の中には)全然入っていないところもあります。20キロは仕方ないだろう。私はここで「たんこぶ」という表現をしました。「20キロに“たんこぶ”つくってけれ。飯館村に向かっておっきなたんこぶのラインを引いて(飯館村全部を入れて)けれ。」と言いました。そうすれば飯館村全体により早い避難の啓発ができるだろうと考えました。放射能が飯館村にまともに向かって飛んでいるにも関わらず国では何の対応もしない。県も村もしないんです。そしてテレビ局・新聞局に向かって私が発信した、その部分だけがカットされているんです。なぜかしら…。また私の所には違うテレビ局が来ました。そのテレビ局の人に向かって「私はこういう事を言いたいんですけどもどう思いますか。」とたずねると、「長谷川さんの言うことはもっともだ。」と言うわけです。「それだったらこれを放送してくれ。放送するんであれば協力します。」「当たり前です。これは、私たちもそう思います。協力します。」と。でも次の日テレビを見てみると、ものの見事に“たんこぶ”のことはカットされているわけです。でも後になって、私が発信してきたことは「計画的避難」の区域設定に影響を与えました。

当時、私の親戚にも村会議員をやっている方がいて、その人も私と同じことを村役場で叫んでいました。報道関係者を向かいにして、村長さんがいました。するとその人の隣にいた村長さんに服を引っぱられて「あんた、そんなこと言うな。言ったらダメだ。村は避難

のラインに入れなくてくれ。」と言うわけです。我々は、「入れろ」と言うわけです。そして、村長は新聞記者に対して「そんなこと絶対に報道に載せんよ。絶対書くなよ。」と言っているわけです。とにかく、村長は計画的避難の区域のラインの中に飯舘村を入れたくなかった、避難をさせたくないということだったんです。

3月15日。「6時20分・44.7マイクロシーベルト、測定値一番館前」とあります。「一番館前」とは村の中心部なんです。大きな集会場の前で私は、「この数字そのものがおかしい。」と言いました。まさに3月15日、5時半頃、一番北の外れ、原発から一番離れている私の地区で100マイクロシーベルトオーバーです。何で、村の中心部で44.7なのか。今は飯舘村の線量は0.6ぐらいに下がっています。これは別に下がった訳じゃない。雪が積もっているからです。雪によって放射能に蓋をかけたみたいな状況になっているんです。雪が降る前、全国に発信されていた線量計データで、1.8から2.0、そのくらいだったんです。ところが、飯舘村の平均は、雪が降る前には5から6ありました。高いところでは地上1メートルで9から10マイクロシーベルトあるんです。私の家は原発から約43キロ離れています。そこで地上1mで5.6マイクロシーベルト。地上10センチだと、約9マイクロシーベルトになるんです。

3月16日。私の両親、長男夫婦、孫、娘の旦那と子どもたちを千葉県にいる私の妹・弟のところへ避難させました。家中のガソリンを全部集めて1台の車を満タンにして避難させました。ところが、10日ぐらい経った頃から娘が私の所に電話をかけてきました。娘は役場職員で、対策本部に張り付けになっていたのだから、避難させるわけにはいかなかった。それで娘だけを残したんですが、子どもたちが電話口で「ママ、ママ」と泣くと言って、娘が私の所に電話をしてくれました。私が「今、こういうとんでもねえ状況なんだからお前がしっかりしないでどうすんだ。」と言うと、娘は電話口で泣くわけです。このまま

では今度は娘がおかしくなると思ったので、私は娘の旦那と子どもたちを戻しました。そして福島市内にアパートを借りてそこに住ませましたが、そこが渡利地区でした。何の因果だか、この地区がホットスポットだったわけです。私は現在、伊達市の仮設住宅に入居しています。娘たちはその近くの伊達市保原町というところにアパートを借りて避難をしています。

3月20日。村は県に避難の態勢を整えてもらい、集団避難をしました。栃木県の鹿沼市に希望者は避難をしてください、ということでした。私は集会の中で、「できれば集団避難をしてください」と申し上げましたが、みんなは自主避難を選びました。なぜ私はそう言ったかということ、自主避難というものは自分の親戚とか友だちの所に避難する。4、5日過ぎてくると、お互いに気まずさが出てきます。そうすると戻ってくる。だから、できれば栃木県鹿沼市に集団避難してくれないかと申し上げたのですが、地区のみんなは自主避難を選びました。地区民が約250名。その中の35名だけが集団避難を選んだんです。すると、私の思っていたとおり、一週間もしないうちにみんなは帰ってきた。なぜかということ、放射能というものは目に見えない、ニオイもしない。私だって今も生きています。体に何の異変もないわけです。当時の枝野官房長官も、「ただちに健康に被害が出る、及ぼす影響ではありません」と言ってました。ただちにですから。

みんなが帰ってくると同時に、今度は飯舘村の水道水からヨウ素が検出されました。残っていた人たちで水の配給をしました。私は酪農家です。牛が50頭いて、牛がいるために避難はできない。区長でもあるし、今度は水の配給に頑張りました。

その頃から、国・県・村では「御用学者」という偉い学者をどんどん飯舘村に入れ始めました。そして村民を集会場とか体育館に集めて、「飯舘村の皆さん安全ですよ。大丈夫です。安心してください。」と言い続けてきました。その度、村長は「ありがとうございます

ます。いやー、安心しました。」と言っているわけです。

一方、京都大学原子炉実験所の今中助教らのグループが3月下旬に飯館村に入りました。そして飯館村の放射能をつぶさに何百カ所と測っていました。今中助教が「信じられない。とんでもない。こんな放射能の高いところに人が住んでるなんて。信じらんねえ。」と言っているわけです。その助教らと共に村長に進言しました。データを全部採って、村長に「これがデータ。結果なんですよ。こういう放射能の高いところで生活してはダメですよ。すぐに避難させるべきです。」と。村長は、「このデータを絶対に公表しないでくれ。表に出さないでくれ。誰にも知らせないでくれ。」と、涙を流しながら話したということです。それどころか、村長は「この放射線を浴びながら生活はできないものか。」とまで言ったそうです。あまりにも本気で熱心な言葉だったために今中助教も「放射能と一緒に生活できるなんてとてもできませんよ。」それ以上彼らは言えなかったということなんです。

しかし、4月の上旬に彼らはそのデータを公表しました。インターネットで公表したために、あまり広がらなかったんです。

4月11日に計画的避難が設定されました。私も酪農家の代表として酪農家のことが非常に心配でした。放射線量がもっとも高い地区に5軒の酪農家があります。そこを心配でまわって行った時のことです。ジャーナリストの人が雨どいの下で放射線量を測っていました。「いくらあるんですか。」と尋ねたところ、「1000マイクロシーベルトありますよ。」と答えました。1ミリシーベルト、とんでもないことでしょう。そこから少し走ってきたところは子どもたちが遊んでいるところでした。洗濯物は外に干してあります。大人も外で仕事をしてるんです。

飯館村でも、国でも「御用学者」をどんどん入れて「安心ですよ。大丈夫ですよ。」と“大丈夫ですよ”のオンパレードをやっているわけですから、みんな段々安心してきたん

です。そして、普通の生活に戻ってしまったんです。私はジャーナリストたちからの情報によって背筋が寒くなる思いをしていました。

私はすぐに村の対策本部に行き、村長を訪ねましたが、いなかったんです。その代わり、議会の議長と副議長がいたので「お前ら何やってんだ。今、長泥の地区から来たんだけども、子どもが外で遊んでんだ。なんで、せめて子どもたちだけでも早く避難させねえんだ。俺らはいい。子どもたちが1番だべ。」と思いきり言いました。彼らから返ってきた言葉は「長谷川さんそんなこと言わっちゃって。偉い大学の先生がきて『大丈夫だよ、安心だよ』と言わってんだ。原子力保安委員まで飯館村に来てんだ。『大丈夫ですから』って言わってんだ。」と。私は「何を前ら言ってるんだ。原子力保安委員が飯館に来るっちゃうことは危ねえからくんだべ。大丈夫なところに誰もこねえど。」と言いました。でも、聞き入れてはもらえませんでした。残念な限りでした。

4月10日。また、近畿大学の偉い先生が飯館村にやってきて体育館に集められて、「安心ですよ、大丈夫ですよ、何にも心配する必要ありません。マスクだっていらねえ。」と言っているわけです。そして次の日、4月11日。「それ計画避難だ、それ避難しろ。」そんな馬鹿にした話もありますか。みんな怒りましたよ。そういう偉い学者が口々に「安心ですよ。安全ですよ。飯館の皆さん大丈夫ですよ。」こう、みんな口を揃えて言っているわけです。

国は1カ月、おおむね1カ月をめどに避難しなさい、と計画避難を進めている。前に述べたような、こういう学者たちに対して、なぜ真っ向から反対しないんですか。飯館村は大丈夫なんだ。国の「避難しろ」なんておかしい。大丈夫なんだからって。そういう学者たちが反対すべきでしょう。つくづく思いましたね、私は。

私の息子は今32歳。もともと息子は調理師です。それがある日突然、家に来て、「おや

じ、俺牛やる。」っていうことだったんです。「俺、“べこ”やる。」って。私はビックリしました。なぜかと言うと、私は子どもたちに仕事は無理強いはしないと思っていたからです。私と女房2人で酪農を始めました。だから、子どもたちには子どもたちの道があるだろう、無理強いはしたくない。俺と女房、2人でやれるまでやって、それから辞めよう、という話しをしていたんです。そんな時に、息子が戻ってきたわけです。「おやじ、俺“べこ”やる」私もびっくりしましたけれども、これは内心、嬉しかったです。後継者ができたのですから。「お前何やる？」と聞いたら、私の家には仔牛の牛舎がなかったんですね。それをほしいということで造りました。12月に完成して、3月に地震です。牛は4カ月入りました。借金だけが残りました。

4月30日。酪農家全員、私の家に集まっていただきました。飯館村の酪農家は11戸しかありませんが、一生の話をするんだから夫婦で来い、ということで集まっていただきました。そして、みんなで話し合っ、県、村、JAからも一切の支援、フォローもされることなく我々は、自らのこれからの道を決断しました。廃業という決断をしたんです。そしてみんなに言いました。「廃業という言葉は使わないよ。ここで休止という言葉を使おう。廃業という言葉を使えば、そこで終わりというラインになる。そうなれば、これからの賠償問題、そして和解ということになるだろう。和解になったらそれで終わってしまう。だから、廃業という言葉は使わない。『休止』、1回ここで酪農をみんなで休もう。そして、何年か後に飯館村が除染されてきれいになって安全宣言が出されたらまたここでみんなで酪農始めよう」そういう決断をしたんです。女性のみなさんは泣きました。当たり前ですよ。牛の処分がわかってきたんです。

たまたま同じ4月30日。東京電力の堤副社長が飯館村に謝罪に来ました。そこで私は思わずマイクを握って大声で彼らに向かって叫びました。私はいてもたってもいられなかったんです。「飯館村に酪農家は無くなるんだぞ。今日、我々は休止という決定をしたんだ。

あんた方に我々の気持ちわがっか」と。

仔牛についてはすぐに乳を搾る牛ではないということで移動制限がかかっておらず、避難することになりました。問題は親牛でした。避難、移動したらダメだって言われていたから「どうしたらいい。牛を置いていく、避難するなんてできねえど。どうすればいい。」と、私はあっちこっち走り回りました。すると県の方から「飯館村の牛、2頭だけ屠畜してください。」って言われました。「殺してください。そして、殺した牛の肉から放射性物質が出なければ飯館村の酪農家の牛を全部殺してもいい。」と言っているのです。情けなかったです。そこしか道が開けなかったんです。そして我々はそのに行かざるを得なかったということなんです。酪農家みんなが自ら決断したとはいえ、情けなかったです。

東京生まれの新潟育ち、酪農がやりたくて仕方がなかった田中君。彼はそのための土地を飯館村に見つけました。彼は本気になって無我夢中で酪農をやってきました。ようやく、軌道に乗ってきて、今年が10年目の節目。牛が連れて行かれ、男たちが泣きに泣いています。酪農家の奥さんは牛が積まれたトラックに向かって「ごめんね、ごめんね。」と言って泣いて追いかけています。私も酪農家の代表として全てに立ち会いました。情けねえなんてもんじゃなかった。本当にこんな事がこの世の中にあるのかと思いました。

6月29日。避難させていた仔牛が今度は競りにかけられました。これで我々飯館村の酪農家の牛は全てなくなったわけです。そんな中でどんどん屠殺されていきます。私も覚悟は決めていましたが、テレビを見ていたある日、20キロ圏内の酪農家の牛が餓死している映像を見たんです。その映像を見た時に私は「あっ、こんな事ダメだ。ああ、もうダメだ。俺牛殺さねえ。」自分自身に誓いました。そして私も必死になって動きました。牛を動ける方法があるはずだと。当時から私の所に来ていた国会議員に「私を国会に連れて行ってくれ。」とお願いしました。彼らが段取りをつけてくれて、私は永田町の議員会館において議員集会を、院内集会を開いていただき

ました。そこで私は「俺は牛、殺さねえど。もうダメだ。皆さんにお願いをしたいんだ。厚労・農水に働きがけをしてくれ。」と大声でお願いをしたんです。超党派で集まっていたのですが、その中に福島県選出の国会議員が一人もいませんでした。全く情けなかったです。でも、東京から帰ってきたら、残っていた親牛の移動宣言が解除になりました。酪農家みんなは大喜びで、今度は近隣の酪農家に引き取られていったんです。でも空っぽの牛舎を見るたびに情けなくて、仕方がないと思うのですが。

飯館では何事もなかったな、と思っていた矢先、相馬市の友人の酪農家が「原発さえなければ」という書き置きを残して自らの命を絶ちました。最も恐れていたことが起きました。「ねえちゃんには大変お世話になりました。長い間お世話になりました。2011. 6月10日 PM 1時30分 ごめんなさい。原発さえなければと思います。残った酪農家は原発に負けないで頑張ってください。仕事する気力をなくしました(概略)」。彼は逝ってしまっただけです。彼には7歳と5歳の息子がいました。私も飯館村のことで精一杯だった。彼の所まで目が届かなかったんです。失敗したなど今思っています。

これと同じ頃に私のすぐ隣の地区では102歳のおじいちゃんが「お前ら、避難しなねえんだべ。俺がいだんでは足手まといになっべ」と、自らの命を絶ちました。102歳ですよ。そして、南相馬市では93歳のおばあちゃんが「私はお墓に避難します」と、こういうことが次々に起きてきました。

現在、飯館村民は有志で300名ぐらいの人で「全村見守り隊」とパトロール隊を編成して、24時間態勢でパトロールをしています。もちろん私もやっています。

仮設住宅にも色々種類があってログハウス風の仮設住宅もあります。私は「在来工法」と言われる方式の仮設住宅に入っています。私は区長会に出るたび「部落で仮設に入居する人は、全部1ヶ所にまとめないとダメだよ。」と言い続けました。でも行政はそれをやろうとしなかったんです。「ダメだよ。コ

ミュニケーション崩れっど。絆が無くなっど。まとめにかダメだ。」とまで言った。多分しないだろうと思ったから私は自分で動きました。そこで自分で5つの方向性を持ちました。

一つめは仮設は年寄りが多いということで大きな病院が近いこと。二つめは大きなスーパーが近いこと。三つめは仮設住宅の近隣に住宅地があること。その近隣の住宅の人たちとの交流が生まれるだろうと考えたんです。今までの仮設ができた所は、工業団地などがあるようなところでは、みんな独りぼっちになってしまう。これではダメだと思ったんです。四つめは、木造の住宅。「在来工法」がよかったんです。五つめはやはり自分の故郷、飯館村に近いところと思いました。全部の仮設をまわって、それらの条件を満たす所が1ヶ所だけありました。今、まさに私が住んでいる伊達市の仮設住宅です。そして、村の対策本部に行って「前田の部落で仮設住宅に入る人、全部ここにまとめっからな。ここ前田のために残せよ」と指示をしました。行政にすぐに仮設に入る人のリストを出させて、片っ端から電話して「前田部落ここにまとめっど。集まれー」と、号令を発しました。その結果、54戸の中の22戸がこの仮設に集まって生活をしています。なぜそのようにしたかということ、阪神淡路大震災の時に老人の孤独化がすごく問題になったからです。すぐ近くに畑も借りて、家庭菜園ができる状況を作ってみんなに喜ばれました。

これから私のこれからの思いなどについてお話をしたいと思います。

原発というものは国策として進めてきたわけです。ということは、こういう事故が起きた時の対応・対策というものがきちっととられているもんだと思っていたんです。ところが、実際にこういうとんでもない事故が起きてみれば、その対策なんて何にもとられていなかったんです。これはビックリしました。25年前のチェルノブイリ。あの大事故だって対岸の火事だったんです。日本の原発は絶対に事故は起きないということだったんです。

今、除染について、どうすれば最も効果があ

あるのかを検証しています。飯館村で今、モデル事業をやっています。400メートル四方の区画を指定し、その中には、山あり、川あり、家あり、道路あり、畑あり、田んぼなどがあります。その除染費用は6億円かかるそうです。それもどんな方法が効果があるのか、わからないまま闇雲にやっているわけです。飯館村の面積は230平方キロです。その内の75%が山なんです。

私の所にも海外の学者たちもたくさん来ていて、私は逆に質問をしました。日本の学者は、放射能というものは土着すると言っているのですが、彼らは「確かに土着はするんですけども、全てはしない。」と言うのです。残りは低いラインで“浮遊”していると言うわけです。私は彼らの言うことがもっともだなと思うんです。

今、飯館村で場所を指定して20カ所、月に2回ずつ放射線量を測っています。そこをみると、10日前に測った線量よりも今日測った線量の方が高いところはいくつもあるから“浮遊”しているんだと推測するわけです。飯館村では住環境を2年、田んぼ・畑などの農地を5年、山を20年で除染すると言っています。私は「山の除染をしない限りはいくら農地・住環境をやってもダメでしょう。常に“浮遊”をしてるんだから」そういうことを私は申し上げています。

飯館村は今まさに除染まっしぐらです。私はそれじゃダメだ、と思います。もちろん私だって自分の生まれた故郷だから帰りたいわけで、除染は必要です。でも、もう一方では村を離れる方向を今からシミュレーションしておかないとダメでしょう、と村長に申し上げているんです。これから4、5年で除染をしていって、そして「あっ、やっぱりダメだった。じゃ、村を出っか」となった時に、ただ無意味な4年、5年になります。だから、村を出る方向も今からシミュレーションして、もしダメだったらすぐに乗換えられるような方向、そういうものを今からやらないとダメだろうということを申し上げています。

私には4人の孫がいます。長男夫婦や孫たちは山形県に行っていて、既に仕事を見つけてい

ます。国のことだから、もし、年間被曝量がかなり下がった場合、「ほれ、飯館の人帰って言うかもわからん」と言われたら、私は帰るかどうかわからないです。でも、我々だって帰ったところで何にもできない。農地が汚染されているのですから。そうした場合、どうなるんだろうという思いばかりが先走るわけです。でも、はっきり言えるのは私の子ども、息子、孫は飯館には戻さない。そんな飯館に戻ってきたところで子育て・子づくりができるような環境ではないのです。情けない限りです。

これから我々はどうなるのか、全く先の見えない闇雲な状況。そんな中で、私は今の子どもたちがものすごくかわいそうだなという感じがします。

7月末、長泥地区で一番線量の高い地区の区長さんと私の友人と見守り隊で一緒になった時、「長谷川さん、俺んとこの女子高生が、『私らもう結婚なんてできねえべな。もしも、もしもそれでも（結婚して）いいって言う人が現れたとしても恐くて子どもなんて産めねえ』って、俺の方の女子高生、こういうことを言うんだ。長谷川さんどう思う」と話していました。私は何も言えなかったです。情けないの一言でした。

今の飯館村の子どもたちや私の4人の孫たち、飯館村全部がこれから10年、15年、20年後になった時、広島・長崎での原爆の時に差別があったように差別を受けるんです。もう始まっています。残念でならないです。日本の国は恐ろしい国です。こういう事故を第1、第2ステップとって、風化させようとしているんです。終わったかのように。とんでもないことです。まだメルトダウンした燃料を誰も見ていません。どんな状況かわからない中において風化させようとしています。そういうことは絶対にあってはならないことだと思います。

最後に2点について、お願いしたいと思います。一つは、子どもたちへの差別が起きない社会づくり体制づくり。そして一つは、風化させない社会づくり。そういうものをお願いして私の講演を終わりたいと思います。ご静聴ありがとうございました。(完)

3 第38回奈良県 人権・部落解放研究集会 分科会・フィールドワークについて
1月29日 午後

(1) 参加者数 総勢247人(参加券集約数)

▶分科会参加者数内訳

第1分科会/復興に向けたまちづくりのあり方について…86人

第2分科会/原発事故・放射能汚染をどう教訓化するのかを考える…123人

フィールドワーク… Aコース21人

Bコース17人

(2) 内容

第1分科会(桜井市中央公民館)

- ▶パネリスト 上田邦晶さん(NPO法人どうで)
川口洋子さん(奈良県医療政策部保健予防課)
寺川政司さん(近畿大学建築学部)
滝口俊二さん(NPO法人森の月人)
成田進さん(市町村人権・同和問題「啓発連協」)
- ▶コーディネーター 村上良雄さん(財団法人たんぼぼの家)
- ▶運営責任者 大平和幸 (財団法人奈良人権・部落解放研究所)

第1分科会は、財団法人たんぼぼの家の村上良雄さんがコーディネーターを務め、パネリストに、山添村で福祉サービス事業所を運営するNPO法人どうでの上田邦晶さん、奈良県医療政策部保健予防課の川口洋子さん、近畿大学建築学部の寺川政司さん、東吉野村で村おこしに取り組むNPO法人森の月人の滝口俊二さん、市町村人権・同和問題「啓発連協」の成田進さんを迎え、それぞれの活動を報告し、復興にむけたまちづくりについて提言した。

〈上田邦晶さん/発言概要〉

震災の直後、奈良県と京都府の福祉関連事業所が一緒になって現地に入り、支援を必要としている施設を回った結果、宮城県のひたかみ園という施設に応援に入った。

同園は入居者の処遇はもとより避難所を回り、孤立している障がい者、高齢者を自分の施設に受け入れていた。その応援で炊き出しや、日用品の提供を断続的に続けた。また岩手県と協力してマグカップを作って販売し、その収益をカンパしている。紀伊半島大水害の被災地でも支援に入った。

私の仕事はさまざまな不安の解消がメインになると思う。社会全体が不安になる中で、今回の震災・原発事故がさらに不安をあおっている。非常に理不尽な思いをし、自分のよって立つ位置を奪われた人たちが、本当に安心して安全で暮らし、生まれてきてよかったな、共に暮らせる人がいてよかったなと思える地域を再度つくり直せるチャンスではないかと思う。

〈川口洋子さん/発言概要〉

奈良県の保健師は4月1日から福島県相馬市へ1週間程度、支援に入った。5月の連休時に宮城県に、7月、9月にも現地へ入った。保健師の役割は、助かった命・失わずに済む命を守ること。避難所での2次災害を防ぐことだ。

避難所ではコミュニティをつくることで秩序が生まれてルールができ、連帯感が生まれて、

安心感につながる。障がい者や高齢者の配膳介助、風呂当番など役割が生まれると自立に向かって、ストレスが軽減される。

平常時から分野を越えた横断的な要援護者の把握につながる体制づくりが必要だ。災害時、避難所や地域では孤立防止にむけて仲間づくり、コミュニティをいかにつくっていくかが第一。それは、普段の生活や活動からつながると思う。生活への気力が高まって自信が持てて避難所から次の仮設へ。仮設から次の生活への力になっていく。

〈寺川政司さん／発言概要〉

神戸市に居住していた当時、阪神・淡路大震災を経験し、支援活動をはじめた。被災者は、住み慣れた地域との関係を失い新しい場所に行かざるを得ず、人間関係を断たれた。そのため孤独死が非常に問題になった。災害復興の際に、これまでの人間関係をどう維持して積み上げ、継承していくのが非常に重要だ。

精神科医のビバリー・ラファエルは自著「災害の襲うとき」の中で、被災者がうつ状態になった際、住み慣れた場所で自身の所有物を探す機会を得ることが必要だと述べている。

復興にむけて、人権のまちづくりの持っている魅力、経験は非常に重要になってくる。被災地だけではなく、これからのコミュニティやまちづくりにとって、特に必要な取り組みだ。災害の発生に備えて、コミュニティの拠点となる居場所を今までどのようにつくってきたかを引き継いでいく重要な時期にある。

〈滝口俊二さん／発言概要〉

6年前、東吉野村の村おこしを手伝ってほしいと頼まれて、訪れたのがきっかけで大阪から移住した。2年間の構想の後、NPO法人『森の月人』を設立してから3年後に山をひとつ越えた宇陀市に1万坪の山林を手に入れ新しい村づくりに取り組んでいる。今春から野菜づくり、来年から田植えをし、自給自足できるようにしたい。水車による発電も計画中だ。

東日本大震災の後、住むところを失った被災者の方々に、村づくりを体験していただき、地元の人たちの協力を得て空家に移住することも可能だと思う。「村ごと移住」が理想だが、例えば何組かの家族が先に移住して、休耕田があるので農業で生活できれば、残っていた家族も移住する。故郷が復興したら戻ればいいし、行き来することも可能でないか。いろいろな知恵、支援を提供していきたい。

〈成田進さん／発言概要〉

人権を大切にす、差別をなくす取り組みの中で、戒めをもって心してきたことは、「足を踏まれた人、つまりは経験、体験をした人でないと本当の痛さはわからない」ということだった。自然体で「痛さ」に寄り添い、「痛さ」をわが身におきかえる姿勢が大事な事だ。そして、その姿勢こそが、他者の痛みを察する想像力を磨くことになっていく。「人権の大切さを分かち合えることになる」ことを、東日本大震災から教訓にしなければならないと思う。

私たちは復興に向けたまちづくりにしっかりと寄りそう。耳を傾け、目をむける。願わくば、足を運ぶ。可能な限り、自分でできることを見つけ出し、つながり、うねりをこれからもつくっていくことが、実は震災の様々な教訓そのものをいかしていくことになると思う。

甚大な被害を受けたのは、若者が仕事を求めて都市部へ流出した過疎地域が多い。復興は、地方と都市の格差を埋めていく役割や任務がある。

〈コーディネーター村上良雄さん／まとめ概要〉

日本は残念ながら情報を隠したが。東日本大震災では、放射性物質はどの方向に流れるかは、緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステム（SPEEDI）で分かっていたのに開

示しなかった。大きな問題だ。

阪神・淡路大震災のとき、たんぼぼの家も障がい者への支援活動をしたが、通所施設に通っている人、どこにも通っていない人たちの安否確認が大問題となった。なんとか行政から重度障がい者と知的障がい者の情報開示を受けて、支援ができた。東日本大震災も同じ状況だった。情報開示の議論が延々と続いている。

東日本の被災地への、たんぼぼの家の活動を紹介したい。障がい者がメッセージを込めた詩集を被災地に届けた。絵画や陶芸など優れた能力を活かした支援も行っている。

障がいの有無にかかわらず、人がその人らしく生きられる地域づくりが一番求められる。その人が生き甲斐を持って生活できるようにバックアップできるか、つまりエンパワーメントできるかが求められている。復興のまちづくりのため、一人一人のニーズにあった支え合いが必要になっていく。持続可能な社会が、復興のまちづくりの基本的な考え方だ。

第2分科会（桜井市民会館）

- | | |
|------------|--|
| ▶ パネリスト | 川瀬俊治さん（ジャーナリスト）
辻本正教さん（部落解放同盟奈良県連合会）
平井啓三さん（NHK奈良放送局）
村上真平さん（福島県飯舘村なな色の空）※欠席
福岡定晃さん（NPO法人山野草の里づくりの会）
川口由一さん（赤目自然農塾） |
| ▶ コーディネーター | 大寺和男さん（奈良県人権教育推進協議会） |
| ▶ 運営責任者 | 伊藤 満（部落解放同盟奈良県連合会） |

第2分科会は、奈良県人権教育推進協議会の大寺和男さんがコーディネーターを務め、パネリストにジャーナリストとして福島を取材された川瀬俊治さん、部落解放同盟奈良県連合会の辻本正教さん、NHK奈良放送局の平井啓三さん、桜井三谷で里山づくりに取り組むNPO法人山野草の里づくりの会の福岡定晃さん、自然農塾を主宰する川口由一さんを迎え、「原発事故、放射能汚染をどう教訓化するのか考える」という課題について、それぞれの立場から提言した。

〈川瀬俊治さん／発言概要〉

拡散している放射能は無色、無臭、無形でまったく分からない。低レベルの放射線であればただちに生命に害はないという政治家や専門家。一方で低レベルでも危険だという専門家がいて、どちらを信じていいのかわからない。専門的知識がないので、風評被害が大きくなるだろうと思った。そんな中で、我々が基本とすべきことは、韓国の環境学者が指摘する「放射能に関する許容基準値は綿密な医学的研究結果ではなく原子力産業の維持と拡大のために御用学者たちが恣意的につくった数値」ということを考えないといけない。

今の科学者たちは、低レベルの放射線を浴びてもガンの発症率は1万人中2人ほど多くなるだけで大丈夫だろう、と言う。しかし、放射能を浴びる他の生物体様への影響については口をつぶる。例えば、遺伝子への影響が心配される。そういう意味では放射能への安全神話を今一生懸命注入しているのではないかと思った。

東電が原子力のPR映画で38トンのテトラポットが津波を防ぐことをアピールしているが、現実には想定外と逃げている。想定に加えなければいけない津波は過去に起きていた。いまだに「想定外」の津波が原因であったとして自己の責任逃れを主張している。放射性物質が大気と海水で拡散するから大丈夫だとの科学者の発言は、科学的発言というより政治的発言だ。

過疎地につくられていった背景、情報公開の問題も考えなければならない。

〈辻本正教さん／発言概要〉

差別とは何かを考える上で、いくつかの点を踏まえながら深めていくべきではないかと思う。

（社会学辞典には）差別について、近代国民国家の成立は、かえって内に含んだ異質な民族文化をもつ少数者集団への差別を強める、「人間が文化をもつ限り文化の中心部に対し周辺部に、否定的価値をもつものをつくり出すのは文化の必然的なあり方である」と書かれている。ひらたく言えば、人間が人間である限り差別そのものはなくなる、ということだ。

東日本大震災と差別・排除というテーマだが、東日本大震災が起き、福島県ナンバーの車がガソリンスタンドで給油を断られたり、避難のために学校をかわった子どもに対して、福島から来たというだけで、放射能がうつるとして、排除されるなどの事件が起きている。典型的な差別と排除が前面に押しだされてきたのが今回の東日本大震災だ。

部落史の中で、例えば、網野善彦氏が「エンガチョ」という子どもの遊びと部落差別との関わりについて述べている。「エンガチョ」というのは鬼ごっこに似た遊びで、穢れがうつる、伝染していくという遊び。そういうことが今回の福島第1原発事故の結果、象徴的に現れてしまった。

〈平井啓三さん／発言概要〉

どのようにすれば風評被害を乗り越えられるのか、報道機関に携わる個人が考えた一考察として話をしたい。

原発にはかなり早くから関心をもっていった。就職後、ジャーナリストになったが、今回の3・11であらためて気づいたことは、あの辺りに原発が多くあることを知っていたので、原発に被害が及んでいると分かった。住民や労働者、特に第7次、8次の下請け労働者の方々の安否が気になり、（メディアによって）隠されているのではないかと危惧した。メディアは、当初は「あぶない。避難しろ」と言っていたが、途中から「安全です」に変わった。

最も残念に思えてならなかったのは、人への差別だ。福島から転校してきた児童に対して放射能がうつるとして差別し、児童が戻らざるを得ないという事態も起こった。ガソリンスタンドの給油拒否もあった。かつての広島、長崎と同じ事象が起きた。こういう事態を乗り越えるにはどうしたらいいのか。基本的には正確な情報をなるべく多く集め、複数のメディアが伝えること。インターネットにも情報を入れる。なるべく講演会も聴講する。要は、分からなくて怖がるのではなくて、正確な情報に基づいて怖がるということが大事なのではないか。

そもそも原発は政治的な背景をもって導入された。原発肯定派の発言はいまだに政治的だ。彼らが原発は必要だと言っても、必ずしもそうではないと思って、勉強してほしい。デンマークでは、コミュニティごとに小さな発電所をつくっている。バイオマスや、家畜の糞尿から発生したガスで発電し温水にかえたりして、いろんな形でエネルギーをつくり、さらに自己管理できる。そうすればまちづくりや、人の生き方も変わってくる。電力会社に我々の命を預けるのは危険だ。違う仕組み、違う社会のあり方を残さないと、これからの子どもたちが困ってしまう。次世代につなぐためにも考えていきたい。

〈福岡定晃さん／発言概要〉

環境問題を人権に捉えていただきうれしく思う。まず、自然環境をまもる取り組みを紹介したい。そして私の思う原発について少し述べたい。

私たちの活動場所は、桜井市の東北部、大和川の上流部にある三谷という大字。標高は350～500メートル、大和高原の一角に位置する。毎年、寒い日だと気温は零下6、7度にまでさがる。大和高原では豆腐を自然に凍らして「凍り豆腐」として売っていたほど寒い地域だ。山野草は寒いものから温かいものまでいろんな草花が残っている。私はその地域で生まれ、1960年代までいろんな草花が咲いていたが、それ以降減っていった。なんとかしなければと大阪の

友人が手伝ってくれて、この会を組織した。山野草を守ろうと活動を始めたが、活動していく中で、山野草だけを守ってはいけなかった。昆虫をはじめ地域全体の自然を考えなければいけないと知った。私たちは人家、水田、川、道も含めた地域全体を里山とっている。その里山を守っていくことについてみんなで考えていこうと活動している。

しかし荒れる地が増える一方で、私たちの活動ではなかなか追いつかないの現状。なんとか自然環境保全の観点から対策をしてほしい。

今回の東北の大震災、津波は想像を絶するもの。どのような手だてができるのか。そこへ輪をかけたように原子力の被害。原子力は政策的に進められていることが怖い。御用学者を集めて、結果をださせるということが行われているようだ。ひとたび事故が発生すれば住民が被害を受ける。責任は誰がとるのだろうか。もちろん東京電力がとるのだろうが、電気料金が値上げされたり、税金が投入されたり、国民が負担する。原発を推進した当時の政治家や学者に責任が及ばないのか、不満を感じる。当時の原子力政策を進めた政治家が責任をとるべきで、政治の判断が求められている。

福島原発事故で、福島では生活ができなくなり、避難する人が増えている。子どもたちがどうなるのか心配だ。私たちの里山でも生活ができなくなり、人が減り、それに伴って公共サービスがなくなっていく。それでさらに住みづらくなる。そうした里山の状況が福島と重なって見える。

〈川口由一さん／発言概要〉

天災はできるかぎり少ない被害にとどめる。人災はゼロにすることを目指すところである。今回の東日本大震災は被害が甚大で大変な不幸に見舞われたが、私たちは生き方、あり方を根本から問い直すよう、警鐘を鳴らされたと思う。それについて答えを見いださなければならぬ。起きたことに対する対応も速やかで、明らかにされなければいけないが、今日は、起こさない答えを求められている。あるいはその課題を人類はつきつけられている。

私は自然農を行っている。具体的には地球の表面、田畑を耕さない、肥料、農薬を一切必要としない。牛を必要としない、うらかな自然の中で一切をペイするやり方、そのことによって食料確保を持続可能にしてくれる。

太陽光発電、風力発電、地熱発電によって、さらに水素を元にしながら電気をつくり、今日の華やかな物質文明を維持しているが、それはさらに人類を滅亡させると思う。私たちは目覚めなければいけない、賢くならなければいけない。今回の福島原発事故はそう教えている。

生かされ方を知らずして、生かしてくれている舞台を損ねているあり方になっている。視点をかえれば、この地球を、私たち人類は自己のエゴから支配している。人と人との関係からも支配している。一人ひとりが支配欲を管理できなくなっている。自分自身を問い直さなくなっている今日だ。

〈コーディネーター大寺和男さん／まとめ概要〉

3月11日の東日本大震災とそれにつづく福島原発事故から10ヶ月が経過した。昨年6月には復興計画が策定し、東北各県内でようやく店舗の再開など、復興へむけて動きだしているとの報道が多くなってきた。しかし、福島県は一体どうなっているのか、他の地域と非常に違う様相を呈している、とうすうす気づいていたが、福島の場合はまったく展望が見えない。帰れるのかさえも分からない状況にある。これが他の被災地域とは違うと言われている。

政府の除染ロードマップが公にされたが、長谷川さんの講演からも、この除染自体が曖昧模糊としていて、これで展望がもてるわけではないことを強く感じた。現地の人が言うには、放射能汚染問題も重要だが、いま早急にしなければならぬのは、展望が見えない中で、避難者の中にうつ状態になる人がたくさん出ている。むしろこちらの方が急がなければならない問題

だと。早急に同心円状の避難エリアを撤廃しなければいけないとも。

私たちは、福島ナンバーの車の給油拒否、転校してきた児童生徒への忌避差別、宿泊拒否など福島の人たちへの差別は耳にするが、実はいま福島県内で放射線量を物差しとした忌避、排除が起こりつつある。線量の多い地域に他の県民が行かなくなりつつある。今は地域に対する忌避排除だが、ゆくゆくはそこに住んでいる人への忌避排除につながっていくだろう。これをなんとしても防ぎたいとも言われていた。難しい問題だが、私たちは少なくとも、福島の中で何が起きているのか、常に知っておくべき。これは差別の問題とつながっていると見ておくべきだ。

福岡さん、川口さんは、「現在の社会は消費文化、物質文明だ」と言われた。言い換えれば、経済を最優先してきた社会だ。これは自分の努力を最優先にして、それが駄目なら自己責任になる。これは、自分中心の社会。そういう社会の中で、大震災、津波、原発事故が起き、私たちの生き方はこれでいいのか問い直しをさせられた。その意味では、共助、相互扶助、お互い様といった暮らしを最優先する社会をつくりあげていくために、一人一人が何ができるか考えていくことが大切だ。

フィールドワーク

目的

桜井市内には、古代以来の多くの史跡や文化財が数多く残されています。また、ふだん何気なく見過ごしているような所からも、先人たちの生活や信仰、地域社会の仕組みを学ぶことができます。こうした史跡や文化財を訪ね、人権の確立された社会を築いていくための道筋を探っていきます。

Aコース 阿部・大福方面

講師 奈良県立同和問題関係史料センター 奥本武裕さん

〈おもな見学地〉

- ・横大路
奈良盆地を東西に貫く古代からの幹線道路。江戸時代には伊勢神宮参詣の街道（伊勢本街道）として多くの人々が往来した。
- ・仁王堂分水碑
大正2年（1913）3月建立されたもの。大福・吉備地区が寺川の強固な水利権を持っていたことがわかる。
- ・阿部文殊院
日本三文殊の一つ。阿倍氏の氏寺として建立された寺院。平安時代中期に活躍した陰陽師安倍晴明ゆかりの地とされ、近年安倍晴明堂が再建された。
- ・小町社
大福・吉備地区にある小祠。地元では雨乞いの神として信仰された。

Bコース 初瀬方面

講師 奈良県立同和問題関係史料センター 井岡康時さん

〈おもな見学地〉

- ・長谷山口神社
大和国内の六所山口神の一つとして古くから信仰されてきた。伊勢信仰との関係もうかがえる。

・伊勢本街道

横大路に続いて、宇陀、伊勢へとつなぐ重要街道。初瀬では開発の手があまり入っていない古い街道のようすを確かめることができる。

・与喜天満神社

与喜山信仰を伝えるとともに、祭礼と地域社会との関係についても多くの示唆を与える。

・藤井彦五郎頌徳碑

藤井彦五郎は大和同志会の指導者として、部落差別の撤廃や、地域の改善などに尽力した。

4 全体的なまとめ

今大会は台風襲来によって当初の予定を中止し、代替行事を開催することになりましたが、関係者のみなさん、参加者のみなさんに深いご理解をいただきましたことについて、あらためて感謝を申し上げます。

大会前々日から当日にかけて、開催地と実行委員会で参加予定者や行事出演者などのみなさんに中止の「連絡・対応」を行いました。全体会当日には県内外から16人の方々が会場にいられました。その都度、ご理解をいただきましたが、細部への周知ができなかった点について、お詫び申し上げますとともに、今後の課題とします。

▶ 集会のテーマや内容について、今研究集会についても「検討委員会」のなかで協議してきました。

「東日本大震災とまちづくり」を考えていくというテーマについては、今日のさまざまな人権課題を考えていく上で、非常に重要な設定であったと総括できます。

また、「被災地と奈良をつなぐ」という視点においても、実行委員会構成団体の個別の支援活動が生まれるなど、成果があったと考えています。

▶ 分科会については、当初予定の4分科会を2分科会に編成したために、課題がしぼりにくかったと思われませんが、協力者のみなさんのご協力をいただき、参加者の問題意識と重ね合わせることができたと考えています。意見交流でも活発な論議が行われました。

フィールドワークについては、本研究集会の貴重な取組であり、参加者募集の段階から高い関心が示されました。

▶ 今研究集会は78団体の賛同をいただいて開催することができました。構成団体が増えていく一方で今後、実行委員会の構成団体との連携・協力体制をどのように充実させるのかという課題もあります。その具体的な課題の一つとして、参加券販売枚数が年々減少していることを受けて、構成団体の購入や販売協力を要請したいと考えています。

本研究集会が人権が確立された社会の実現に向け、具体的に貢献できるよう、今後も実行委員会での議論を深め、相互のネットワークの充実をめざしていきます。

(参考)

29回大会 (桜井市)	／31団体	34回大会 (葛城市)	／58団体
30回大会 (天理市)	／39団体	35回大会 (宇陀市)	／67団体
31回大会 (香芝市)	／43団体	36回大会 (橿原市)	／71団体
32回大会 (大和高田市)	／48団体	37回大会 (奈良市)	／74団体
33回大会 (大和郡山市)	／54団体	38回大会 (桜井市)	／78団体

▶ これまで研究集会実行委員会と開催地は、開催地の現状や企画内容にあわせて柔軟に連携をとり、集会の充実に向け協力体制をとってきました。今研究集会の開催を担っていただいた桜井市には全般にわたって主体的な取組を行っていただきました。今後も、開催地との連携を充実させることが集会成功の大きな要因であると捉え、調整を図りながら協力体制をつくっていきます。

1 開催日

- 1日開催
- 9月23日(日) 午前 全体会
午後 分科会・フィールドワーク
- 9月22日(土)は開催地を中心に準備作業を行います。

2 開催地

- 天理市 ●メイン会場は天理市民会館を予定しています。
所在地 : 天理市川原城町739(天理総合駅-JR・近鉄-より南へ約500m)
収容人数 : 780人

3 主催

第39回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会

協力(予定)

奈良県 奈良県教育委員会

後援(予定)

県内報道関係各社

4 研究集会のテーマ・内容等について

- 広く県民に支持される集会となるよう、その時々の人権に関する出来事、課題として浮かび上がったことなど、話題性に富んだ内容を盛り込み、議論する。
- テーマ、全体会での記念講演、分科会などの内容については一貫性を持たせて設定する。

(1) 第39回研究集会の企画について

- 4月25日に第1回検討委員会を開催し、以下のような企画が提案されました。
なお、企画が確定するのは6月21日開催の第1回実行委員会です。

①テーマ、全体会基調講演、分科会設定について

〈第1案〉

テーマ／差別と排外主義の流れに抗して

基調講演 ①東京大学 姜尚中さん
②北海道大学 山内二郎さん
③フォトジャーナリスト 広河隆一さん

分科会設定 ①ヘイトクライム
②民族排外主義
③差別論
④教科書問題

〈第2案〉

テーマ／「絆」を検証するー東日本大震災と社会的弱者・その後ー

基調講演 ①東日本大震災復興構想会議委員 学習院大学 赤坂憲雄さん
②反貧困ネットワーク 元内閣府参与 湯浅 誠さん

分科会設定 ①災害と認知症
②障害者
③在日外国人
④福祉避難所
⑤孤独死

〈第3案〉

テーマ／人はなぜ差別をするのかー差別の構造に迫るー

基調講演 ①元花園大学 八木晃介さん
②富山大学 佐藤 裕さん

分科会設定 ①いじめの意識
②部落差別
③民族差別

②フィールドワークについて

恒例になっていることもあり、また集会を盛り上げるためにも開催地と協議しながら今大会でも実施します。

〈趣旨〉天理市内には、多くの史跡や文化財が数多く残されています。また、ふだん何気なく見過ごしているような所からも、先人たちの生活や信仰、地域社会の仕組みを学ぶことができます。こうした史跡や文化財を訪ね、人権の確立された社会を築いていくための道筋を探ります。

③アトラクション・バザーについて

- 1日開催、会場事情のため、バザーは行いません。
- そのため参加者の昼食は実行委員会で弁当受注によって対応します。
- アトラクションについては規模を縮小して行う予定です。

④なんでも法律相談・人権相談について

人権問題で悩みを抱える人たちに対応するため、今大会でも実施します。

- なんでも法律相談／弁護士対応
- 人権相談 ／天理市管轄 人権擁護委員対応

以上の企画について、役員と検討委員の合同会議で具体化し、第1回実行委員会で提案します。

(2) 参加費について

これまで同様、3,000円とします。

5 研究集会までの主なスケジュール (予定)

- | | | |
|----------|---|-----------------|
| 6月 日 () | 役員・検討委員会合同会議 | |
| 21日 (木) | 第1回実行委員会 (天理市) | ●研究集会テーマ・内容等を決定 |
| 8月上旬 | 開催要項配布 | ●参加券販売開始 |
| 9月上旬 | 第2回実行委員会 | ●研究集会開催に向けた最終確認 |
| 22日 (土) | 会場設営等、諸準備 | |
| 23日 (日) | 第39回奈良県 人権・部落解放研究集会
〈全体会・分科会・フィールドワーク〉 | |

第38回 奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会収支決算

【収入】

単位:円

科目	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
前年度繰越金	224,605	224,605	0	
負担金	400,000	400,000	0	
参加券売上金	2,400,000	2,046,000	-354,000	3,000×682(参加券)
雑収入	295	244	-51	通帳利息
合計	3,024,900	2,670,849	-354,051	

【支出】

単位:円

科目	本年度予算額	本年度決算額	比較	備考
会場費	400,000	181,400	218,600	
全体会費	500,000	270,570	229,430	講師料・手話・要約筆記等
分科会費	400,000	220,000	180,000	分科会関係者経費
印刷費	1,200,000	1,220,000	-20,000	開催要項・ポスター等
会議費	350,000	149,795	200,205	打ち合わせ・経費
事務費	120,000	373,473	-253,473	消耗品・パソコン費等
通信費	40,000	61,220	-21,220	郵送料等
予備費	14,900	0	14,900	
合計	3,024,900	2,476,458	548,442	

差引残高 収入合計 2,670,849円 - 支出合計 2,476,458円 = 194,391円

※ 差引残高 194,391円は、次年度に繰り越します。

第38回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会の会計監査の結果、決算について適正に処理されていることを報告いたします。

2012年3月31日

第38回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会

監事 一柳 茂



監事 米川 善通



奈良県 人権・部落解放研究集会基金会計について

1. 内規

- (1) 奈良県 人権・部落解放研究集会を今後より一層充実させられるよう、「奈良県人権・部落解放研究集会基金」を創設し、余剰があった場合には一部を繰り出して積み立てていくこととします。
- (2) この基金は実行委員会事務局が保管することとします。
- (3) 基金からの支出は、研究集会運営にあたって、特別に予算措置が必要となった場合に限り、事前に役員会での承認を得て行うこととします。

2. 残高

奈良県 人権・部落解放研究集会基金

残高500,000円

2012年3月31日現在

第39回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会 役員（案）

役 職	名 前	所 属 等
委 員 長	川口 正志	部落解放同盟奈良県連合会 執行委員長
副委員長	辻本 正教	部落解放同盟奈良県連合会 副委員長
	村上 良雄	財団法人たんぼぼの家 常務理事
	小城 利重	奈良県市町村人権・同和問題啓発活動推進本部連絡協議会 副会長
	大寺 和男	奈良県人権教育推進協議会 会長
	山中 達生	開催地天理市 市民部 部長
	吉村 安雄	部落解放同盟奈良県連合会 天理市支部協議会 代表
会 計	成田 進	奈良県市町村人権・同和問題啓発活動推進本部連絡協議会 事務局長
監 事	一柳 茂	奈良県社会福祉協議会 常務理事
	米川 善通	奈良県中小企業連合会 専務理事

事務局

役 職	名 前	所 属 等
事務局長	寺澤 亮一	財団法人 奈良 人権・部落解放研究所 理事長
事 務 局 次 長	伊藤 満	部落解放同盟奈良県連合会 書記長
	西畑 久勝	奈良県市町村人権・同和問題啓発活動推進本部連絡協議会
	大平 和幸	財団法人 奈良 人権・部落解放研究所 事務局長

事務局／財団法人 奈良 人権・部落解放研究所

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1奈良県解放センター内

tel 0742-62-5179 / fax 0742-62-8609

E-mail: kenkenkyu@yahoo.co.jp

第39回奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会 予算（案）

【収入】

単位：円

科目	本年度予算額	昨年度予算額	比較	備考
前年度繰越金	194,391	224,605	-30,214	
負担金	400,000	400,000	0	開催地 天理市より
参加券売上金	2,400,000	2,400,000	0	3000円×800枚
雑収入	209	295	-86	通帳利息等
合計	2,994,600	3,024,900	-30,300	

【支出】

単位：円

科目	本年度予算額	昨年度予算額	比較	備考
会場費	400,000	400,000	0	会場設備費等
全体会費	450,000	500,000	-50,000	全体会関係経費
分科会費	300,000	400,000	-100,000	分科会関係経費
印刷費	1,150,000	1,200,000	-50,000	研究集会冊子、要項、ポスタ ー印刷代
会議費	200,000	350,000	-150,000	打合せ経費、総括会経費
事務費	340,000	120,000	220,000	事務用品費等
通信費	150,000	40,000	110,000	郵送料等
予備費	4,600	14,900	-10,300	
合計	2,994,600	3,024,900	-30,300	

奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会 会則

第1条（名称及び事務局）

この会は、奈良県 人権・部落解放研究集会実行委員会といい、事務局を（財）奈良 人権・部落解放研究所におく。

第2条（目的）

この会は、奈良県 人権・部落解放研究集会の運営及び研究内容に関する実務を担当し、「人権教育のための国連10年」奈良県行動計画が重要課題として示す人権問題等に関して、その解決をめざした研究・運動・教育・啓発のさらなる発展と深化を目的とする。

第3条（構成）

この会は、前条の目的に賛同する機関・団体をもって構成する。

第4条（事業）

この会は、会の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 奈良県 人権・部落解放研究集会の大会運営に関すること。
2. 上記集会の研究内容に関すること。
3. 上記集会の広報活動。
4. 関係諸機関・団体との連絡調整。
5. その他、目的達成に必要な事業。

第5条（機関）

この会に次の機関をおく。

1. 総会 （役員を選出、予算の承認を行う）
2. 役員会 （会務の企画・立案を行う）
3. 事務局会（研究集会にかかわる事務処理を行う）

第6条（役員）

この会の運営にあたるため、次の役員をおき、任期を1年とする。

- | | |
|------|-----|
| 委員長 | 1名 |
| 副委員長 | 若干名 |
| 会計 | 1名 |
| 監事 | 2名 |

第7条（役員の仕事）

役員の仕事は次のとおりとする。

- | | |
|------|--------------------------------|
| 委員長 | この会を代表し、会務を総括する。 |
| 副委員長 | 委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、その仕事を代行する。 |
| 会計 | この会の会計を担う。 |
| 監事 | この会の会計監査を行う。 |

第8条（事務局の構成及びその仕事）

事務局は、委員長が委嘱し、実行委員会の承認を得る。

- | | | |
|-------|-----------|-----|
| 事務局長 | 事務局を統括する。 | 1名 |
| 事務局次長 | 事務局長を補佐する | 若干名 |

第9条（会計）

この会の経費は、参加券の売上金及びその他の収入をもってあてる。

第10条（会計年度）

この会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日までとする。

附則

この会則は、2002年3月18日より実施する。

	開催地	構成団体数	集会日程	集会テーマ
08年 35回	宇陀市	67団体	1日目 全体会 2日目 分科会(午前)	誰もが人間らしく生きられる社会を！ ー今、格差社会で何が起きているのかー ・格差社会の進行と人権課題 ・社会問題として考える格差 ・貧困問題とは ・コミュニティ生活の再構築 ・社会の連帯感 など
09年 36回	橿原市	71団体	1日目 全体会 2日目 分科会(午前)	人間の尊厳を求めて ー「生と死」と人権を考えるー ・現代社会の「生と死」の状況 ・「同対審」答申と「国連・人種差別撤廃条約採択」から45年 ・死のケガレと差別 ・地域社会のつながりの見直し など
10年 37回	奈良市	74団体	1日目 全体会 2日目 分科会(午前)	つながりが実感できる安心社会を ー「無縁社会」の進行を阻止する人権運動と私たちー ・「人権教育及び人権啓発の推進に関する法律」制定10周年を迎えて 県民の人権意識に関する調査結果から 人権相談の件数状況 国連が指摘する日本の人権状況 部落差別・朝鮮学校授業料無償化除外・インターネット上の差別書き込み など ・孤独死が象徴する「無縁化」の進行と私たちを取り巻く人権課題 ・新たな地域社会の創造とつながりの再生 など
11年 38回	桜井市	78団体	1日開催 ※代替行事	東日本大震災とまちづくり ー被災地と奈良をつなぐー ・3月11日の東日本大震災を受け、今後の復興に向けた課題や奈良のまちづくりの方向性を考えていく。 ・「高齢社会白書」の結果をもとにまちづくりに向けた関係性の課題を考える。 ・部落差別の現状について提起(資料作成/部落解放同盟奈良県連合会) 人権侵害救済法案 「在特会」による差別街宣行動 など

メイン企画	分科会
<p>全体会 記念講演・鼎談</p> <p>記念講演 NPO法人自立生活サポートセンター（もやい） 事務局長 湯浅 誠</p> <p>「日本の貧困問題と自己責任論」</p> <p>鼎談「湯浅 誠さんを囲んで」－分科会議論のために－ 湯浅 誠 村上良雄（財団法人たんぼぼの家） 辻本正教（部落解放同盟奈良県連合会）</p>	<p>1 格差社会とくらしの現場 1－医療・福祉の課題 2 格差社会とくらしの現場 2－経済・就労の課題 3 セーフティネットとしてのまちづくり 4 人権問題入門講座 1 5 人権問題入門講座 2</p> <p>※ 1～3分科会／シンポジウム 4・5分科会／講演</p>
<p>全体会 記念公演・鼎談</p> <p>記念講演 東京工業大学大学院准教授・文化人類学者 上田 紀行</p> <p>「今こそ『覚醒のネットワーク』をつくる －いのちが輝く地域社会へ」</p> <p>鼎談「日本社会の『生と死』」 上田紀行 寺澤亮一（財団法人 奈良 人権・部落解放研究所） 丸子孝仁（差別をなくす奈良県宗教者連帯会議）</p>	<p>1 いのちの尊厳について考える 2 死のケガレと差別を考える 3 奈良の部落問題と人権について考える</p> <p>※すべてシンポジウム 第2分科会では基調講演を入れる</p>
<p>全体会</p> <p>NHKスペシャル「無縁社会“無縁死”3万2千人の衝撃」視聴</p> <p>記念講演 NHK報道局社会番組ディレクター 板垣淑子さん 「無縁社会の衝撃に向き合う」</p>	<p>1 児童虐待の現状や課題について 2 部落の実態調査結果と 今後のまちづくりについて 3 過疎地域の課題と 今後のまちづくりについて 4 「無縁社会」と豊かなつながりの構築について</p> <p>※すべてシンポジウム</p>
<p>全体会</p> <p>記念講演 福島県飯館村前田地区区長 長谷川健一さん</p> <p>「奈良から福島原発事故を考える －放射能汚染にどう向き合うか－」</p>	<p>1 「復興に向けたまちづくりのあり方について考える」 2 「原発事故・放射能汚染をどう教訓化するかを考える」</p> <p>※リレートークと討議</p>

資料 29回大会以降の研究集会経過

	開催地	構成団体数	集会日程	集会テーマ
02年 29回	桜井市	31団体	1日目 前日祭 2日目 全体会(午前) 分科会(午後)	<p>変革の時代と人権</p> <p>－共に生きるよろこびを感じ合うために－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会として研究集会を開催 ・「変革と創造の時代」の到来 ・全国水平社創立80周年、アメリカ同時多発テロから1年、有事関連法案、住民基本台帳ネット、人権擁護法案継続審議 など
03年 30回	天理市	39団体	1日目 前日祭 2日目 全体会(午前) 分科会(午後)	<p>変革の時代と人権</p> <p>－新たな「人権教育のための国連10年」の展開を－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「有事法」、「イラク新法」の成立、イラク派兵の予知、インターネット掲示板差別書き込み、人権擁護法案継続審議、地域福祉計画策定の課題
04年 31回	香芝市	43団体	1日目 前日祭 2日目 全体会(午前) 分科会(午後)	<p>変革の時代と人権</p> <p>－「人権と共生」のまちづくりをすすめよう－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人権教育のための国連10年」最終年、世界プログラムへの期待 ・人権擁護法案の廃案、自衛隊のイラク派遣、「有事関連七法」成立、「奈良県人権施策に関する基本計画」策定 など
05年 32回	大和高田市	48団体	1日目 全体会(終日) 分科会開催 (別途)	<p>変革の時代と人権</p> <p>－「人権と共生」のまちづくりをすすめよう－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三位一体改革」による地方分権の困難さ ・戦後60年 ・「部落地名総鑑」発覚から30年 ・自殺、DV、児童虐待の深刻化、「真の人権擁護を考える懇談会」の思惑
06年 33回	大和郡山市	54団体	1日目 フォーラム 2日目 全体会(午前) 分科会(午後)	<p>変革の時代と人権</p> <p>－「人権と共生」のまちづくりをすすめよう－</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「格差社会」から「自己責任論」「勝ち組」「負け組」 ・同和行政に関わる不祥事 ・司法書士や行政書士による住民票等の不正取得 ・国連「人権理事会」の設立決議 ・障害者自立支援法施行 など
07年 34回	葛城市	58団体	1日目 全体会(終日) 2日目 分科会(午前)	<p>「部落解放運動は人間解放を担うるか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・奈良市協元支部長問題 ・「同対審」答中の二つの意義 ・国連人権諸条約機関からの勧告 ・部落解放運動と人権のまちづくり など

メイン企画	分科会
<p>全体会の記念講演 経済評論家 佐高 信 「逆流に抗う」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域と教育改革 2 人権ワークショップ 3 歴史と文化の再発見 4 いま「福祉」を問う 5 差別意識・人権意識の現状と啓発活動のあり方
<p>全体会の記念講演 NPO法人エコ・コミュニケーションセンター代表 森 良 「持続可能な未来をひらく“人権のまちづくり”」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域と教育改革 2 人権ワークショップ 3 歴史と文化の再発見 4 福祉でまちづくりを 5 “両側から越える”ための啓発の課題
<p>全体会での記念講演 ノンフィクション作家 吉岡 忍 「人が大事！ 世界は二の次？」</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域と教育改革 2 人権ワークショップ 3 歴史と文化の再発見 4 福祉でまちづくりを 5 これからの啓発
<p>全体会での記念講演・映画上映 作家 梁 石日 「アジアに向き合わない日本『血と骨』が描く在日」 ・映画「血と骨」上映会 ・記念講演</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 歴史と文化の再発見 2 障害のある人たちの「脱施設」 3 地域と教育改革 4 これからの啓発
<p>記念フォーラムでの講演・シンポジウム 講演 社会学者 宮台真司 「差別はなくなるのか？ －差別をめぐる社会学的思考の最先端－」 シンポジウム 「宮台真司と部落差別を語る」 宮台真司 村上良雄（(財)たんぼぼの家） 辻本正教（部落解放同盟奈良県連） 伊藤 満（部落解放同盟奈良県連）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域と教育改革 2 これからの啓発 3 地域と福祉 4 企業と人権活動 5 歴史と文化の再発見
<p>全体会 報告・記念講演・シンポジウム 報告 花園大学教授 八木晃介 「部落問題に関する行政と部落解放運動のあり方提言委員会」 報告 記念講演 ジャーナリスト 太谷昭宏 「開け心が窓ならば」 シンポジウム「部落解放運動と人権確立の展望」 太谷昭宏 八木晃介 村上良雄（(財)たんぼぼの家） 辻本正教（部落解放同盟奈良県連） 井岡康時（奈良県立同和問題関係史料センター）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 部落解放運動の方向性 2 今後の人権行政のあり方 3 「報道と人権」を考える